＜第１４回政策討論会資料＞

# 多治見市における
# 住宅団地の現状について

（フィールドワーク結果）

岐阜県の将来構想研究会
研究員　　柴田幸治

平成20年5月15日

※本レポートは、「岐阜県の将来構想研究会」における研究の途中過程として、現状認識を考え得る方向性をまとめたものであり、県としての公式な考え方を示したものではありません。

# はじめに

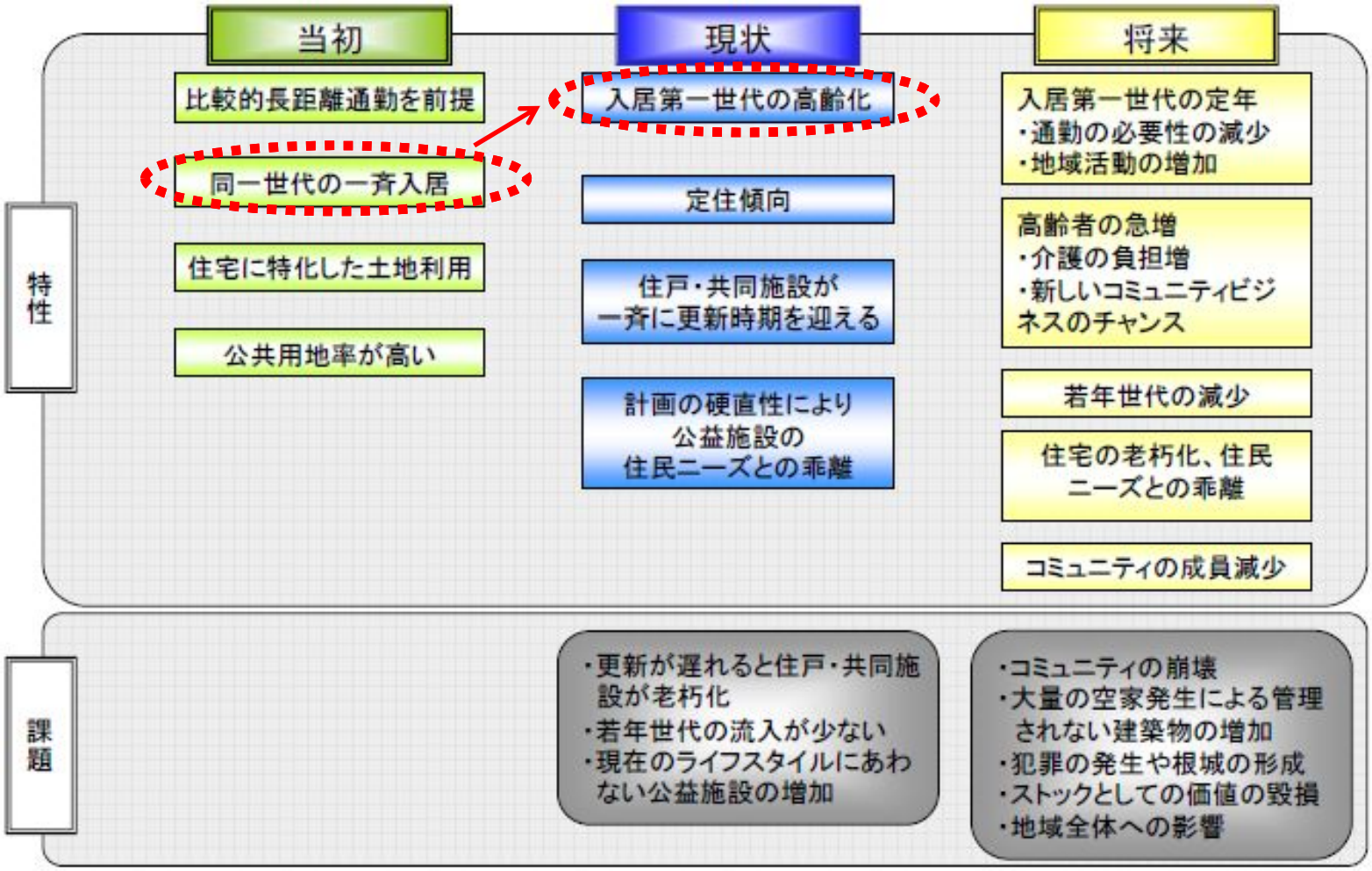
- 住民の世代の幅が狭く、今後一挙に高齢化が進むと予想されている郊外住宅団地は、その後、いち早く人口減少が進む可能性があります。
- 1970年代以降、多数の団地が開発された多治見市ではこの団地における住民の一斉高齢化をまちづくりの大きな課題と捉えて早い時期から対策を検討しています。
- また、多治見市最大の団地であるホワイトタウンでは住民主導で将来の高齢化に備えて、住民同士が「さりげなく互いに支え合う」ための組織づくりを既に始めています。
- 多治見市における、こうした官民の先駆的な取り組みから、人口減少下における地域づくりのヒントを見つけられないかと調査・検証（フィールドワーク）を行いました。

# Ⅰ　住宅団地における急激な高齢化

（成熟期を迎えて問題が顕在化する住宅団地）

# 住宅団地の特性と課題

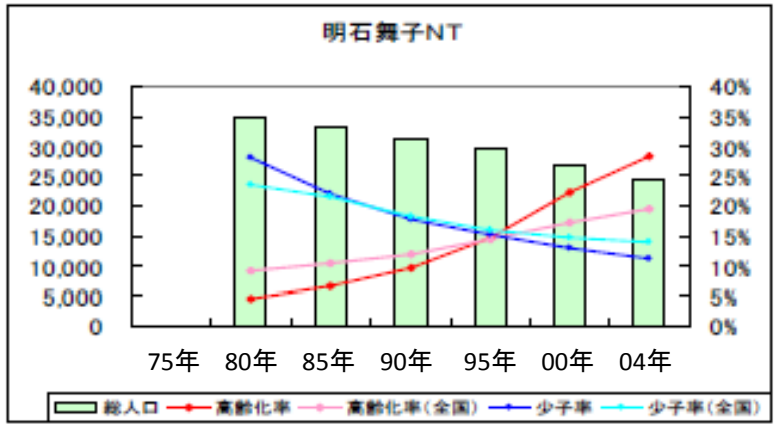
（国土交通省「計画開発住宅市街地の今後のあり方検討委員会」資料　2005年7月28日）

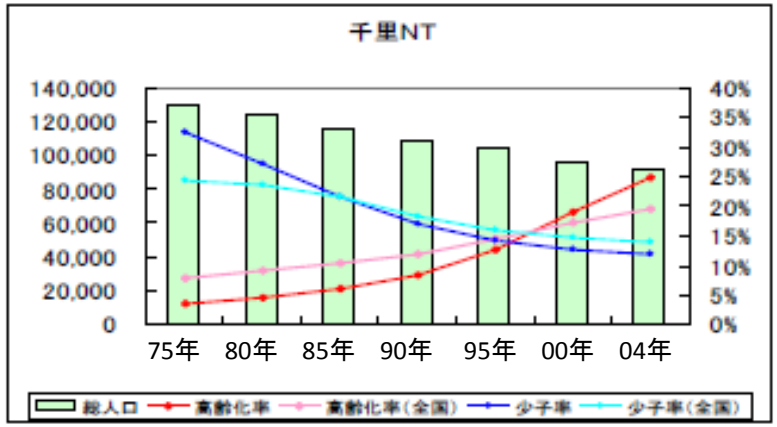


# 各地住宅団地における高齢化率の急上昇

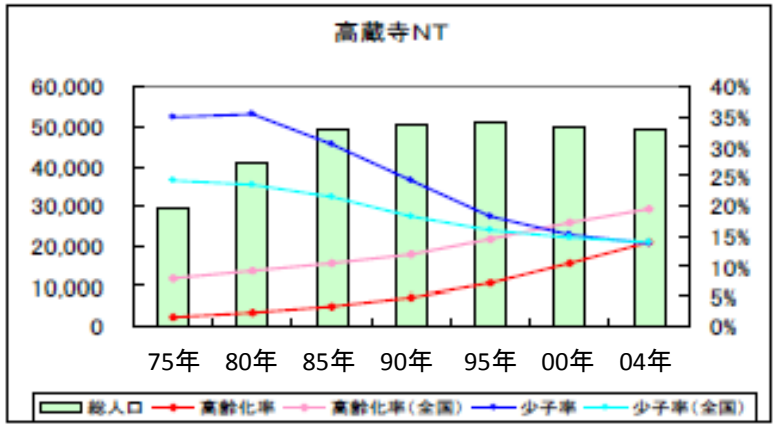
各地で開発された住宅団地では、開発時に同世代の人たちが一斉かつ大量に入居し、その後、住み替えが進まなかったことから、住民の高齢化が徐々に進み、開発時期の古い団地では、**既に10年以上前から高齢化率が急上昇**している。

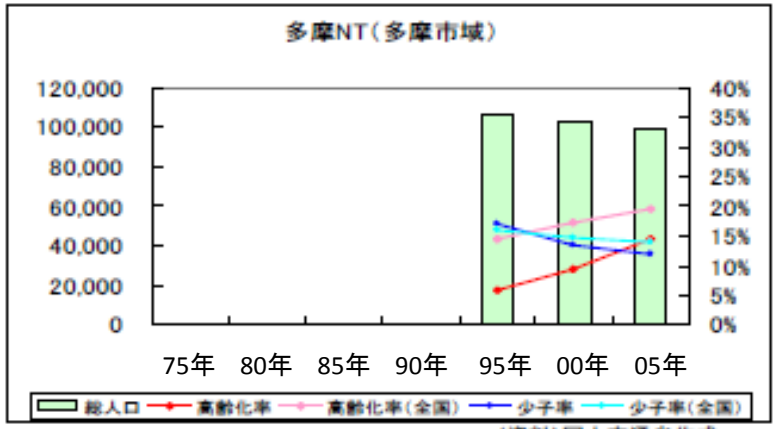
（昭和30年代から開発されたNT）




（昭和40年代から開発されたNT）



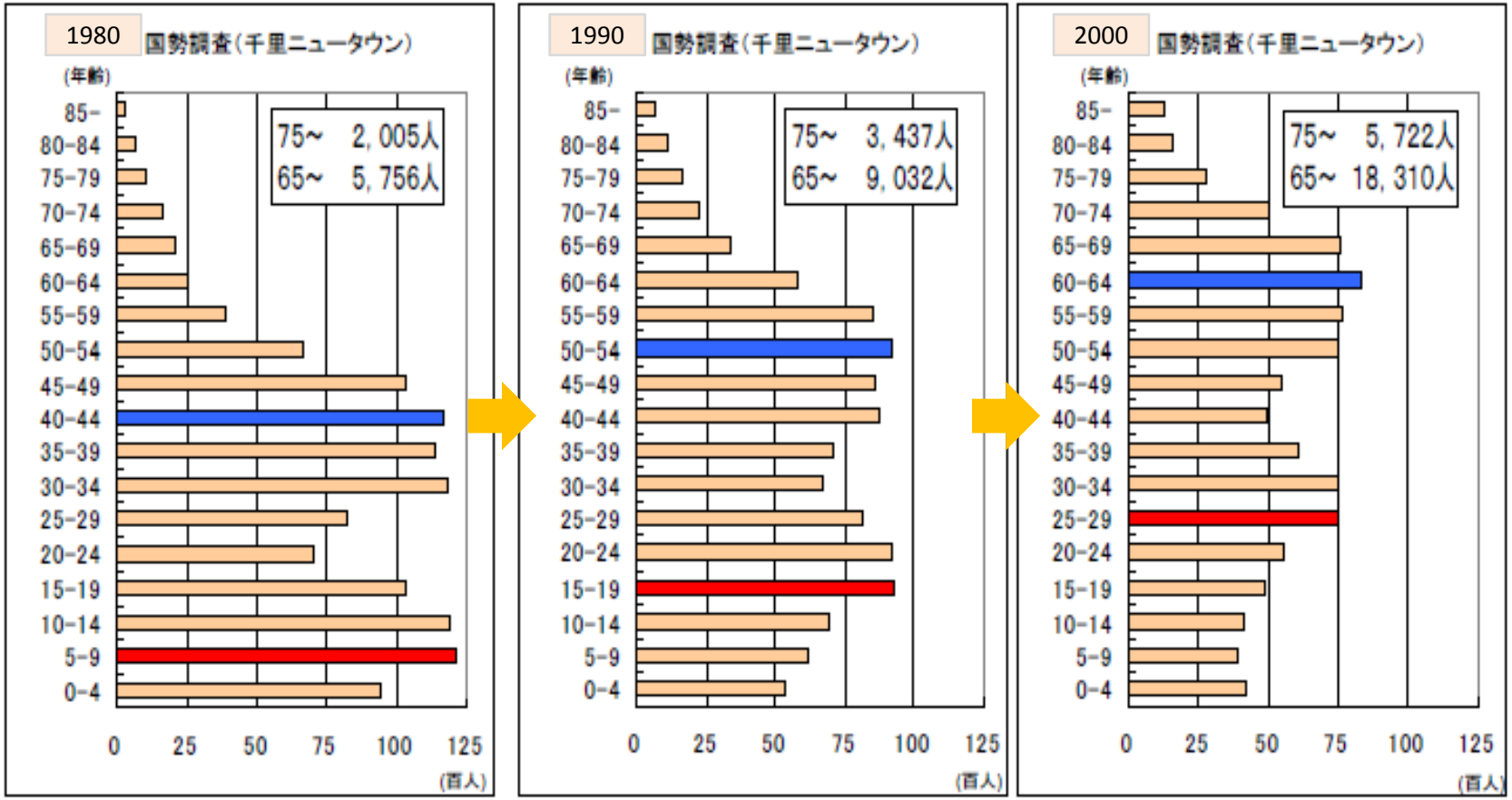




（資料）国土交通省作成

国土交通省「計画開発住宅市街地の今後のあり方検討委員会」資料　2005年7月28日

## 千里ニュータウンの場合

**千里ニュータウンでは、1980年からの20年間で高齢者数が3倍に増加**
**（ある時期を越えると爆発的に高齢者数が多くなる可能性がある。）**




65～ 計7,761人

65～ 計12,469人

S55比 1.6倍

65～ 計24,032人

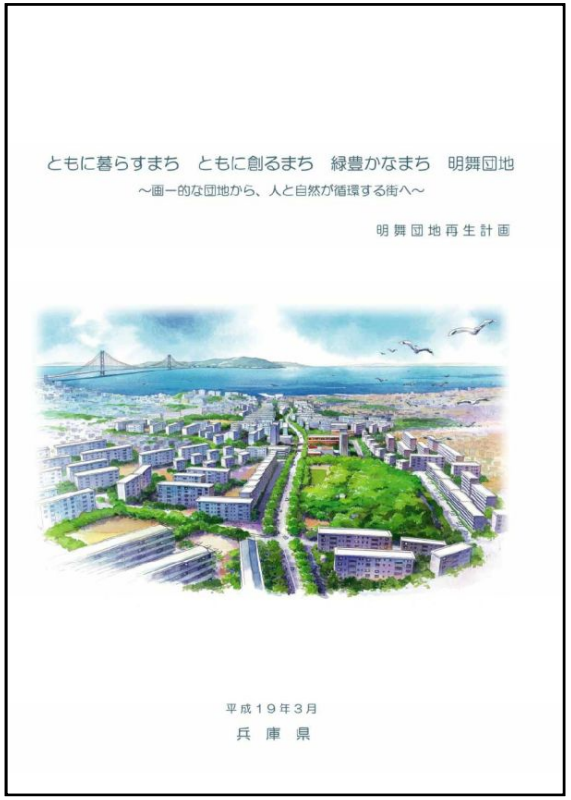
H2比 1.9倍

S55比 3.1倍

国土交通省「計画開発住宅市街地の今後のあり方検討委員会」資料 2005年7月28日

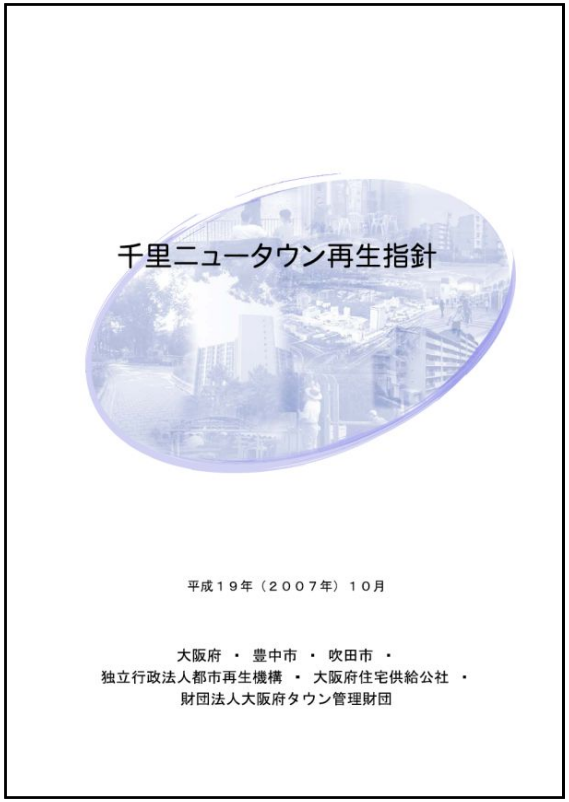
# 住宅団地再生計画

全国各地の住宅団地で少子化・高齢化が急激に進展し、老朽化した住宅の建て替えが始まっている中、現在の課題を解決し、まちの活力を発展、継承するという積極的な再生に向け、住民・事業者・行政など様々な主体同士が協働していくための「団地再生計画」を策定する住宅団地が各地で出始めている。




**【明石舞子団地】**
1964年入居開始。2003年に県下オールドニュータウン再生のモデル計画として最初の再生計画を作成後、2006年に再生コンペを実施し、**2007年3月**に再生計画を見直し

**【千里ニュータウン】**
1962年11月のまちびらき以来40年以上が経過した**2007年10月**に大阪府、地元市など関係6者で再生指針を策定



# まとめⅠ

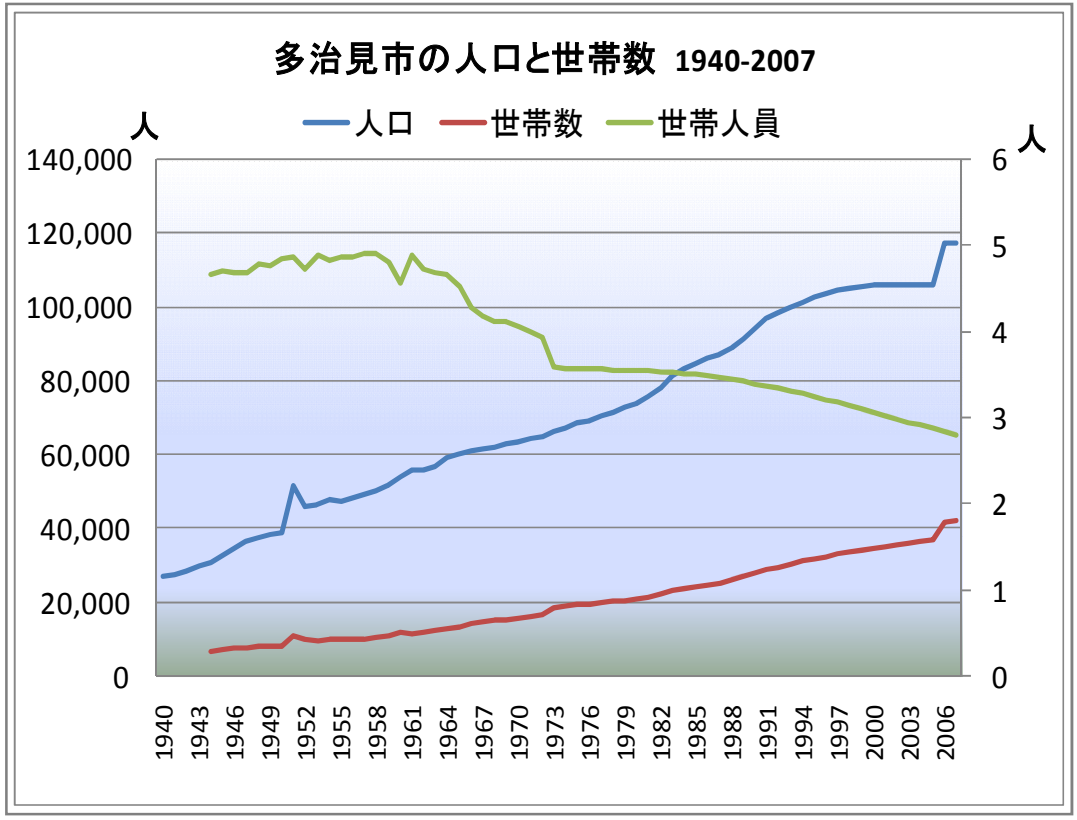
- 全国各地の住宅団地では開発後30年を経過するあたりから高齢化率が急上昇している。
- 1962年に「まちびらき」した千里ニュータウンでは1980年から1990年の10年間に高齢者数が1.6倍に、1980年から2000年の20年間に高齢者数が3.1倍に急増している。
- 1960年代前半に開発された大規模団地では「団地再生計画」の策定が既に始まっている。

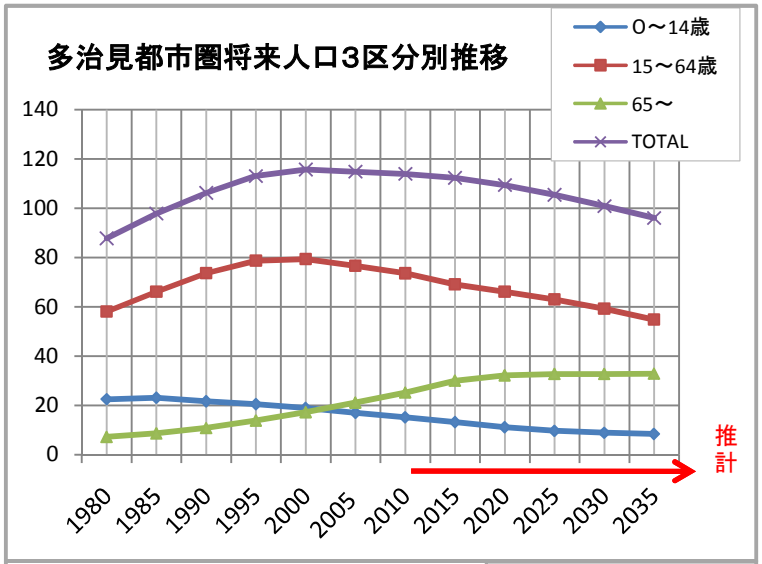
# Ⅱ　多治見市の住宅団地について

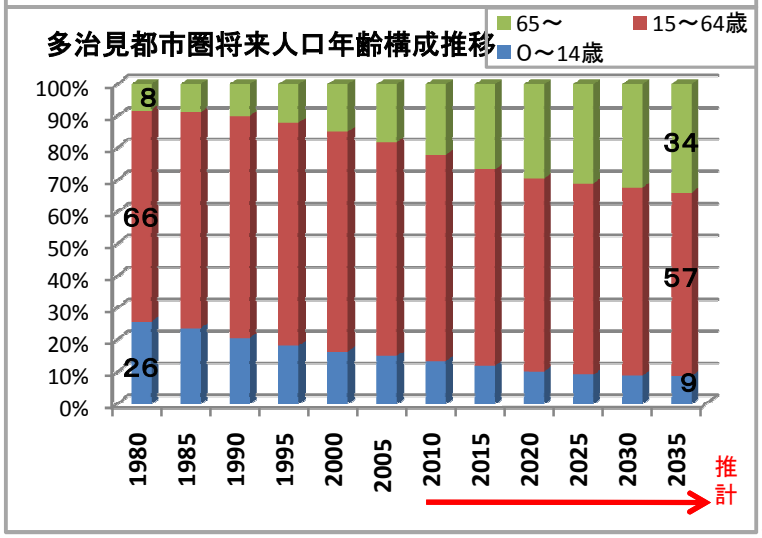
（市内最大の住宅団地・ホワイトタウンを例に）

## 人口推移（多治見市）

**多治見市の人口は2000年頃からほぼ横ばい傾向であるが、2007年には前年より103人増加している。世帯数は1962年以降一貫して増加し続けており、世帯人員は2002年に3人を切り、2007年には2.80人まで低下している。**



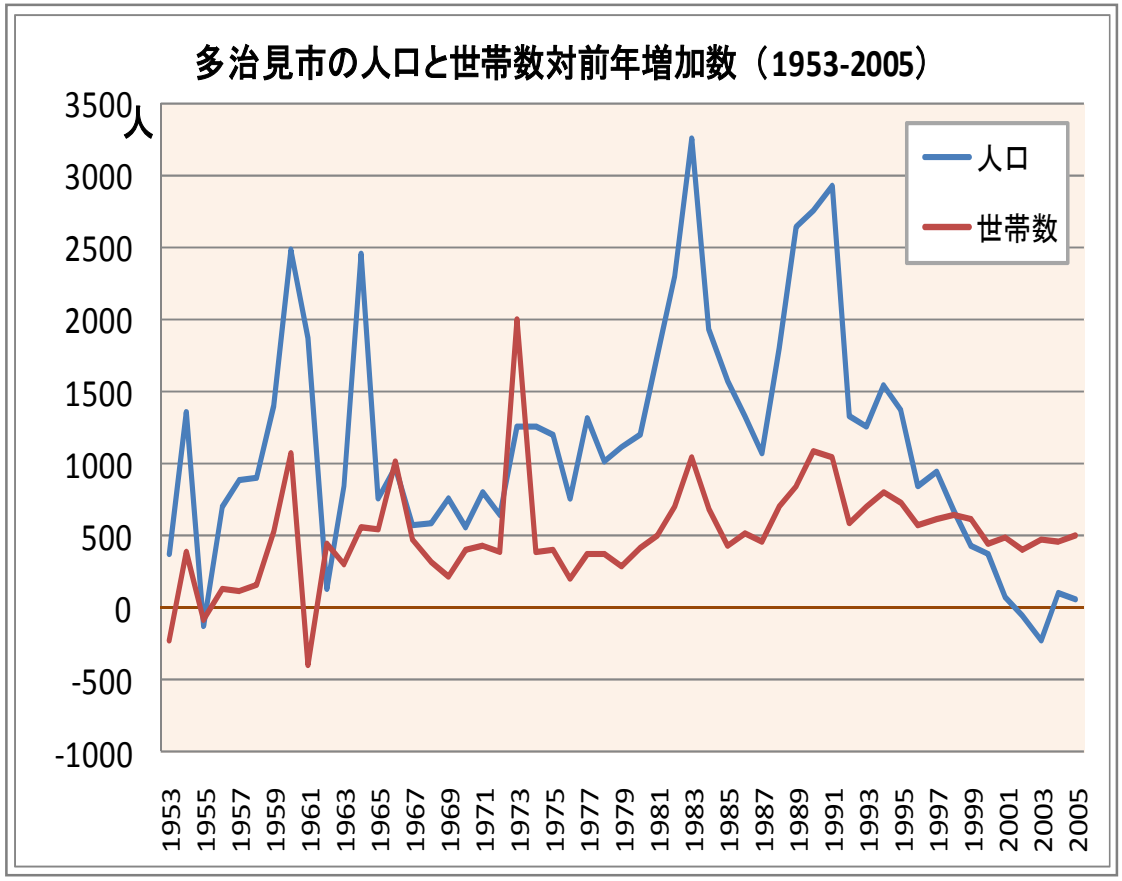



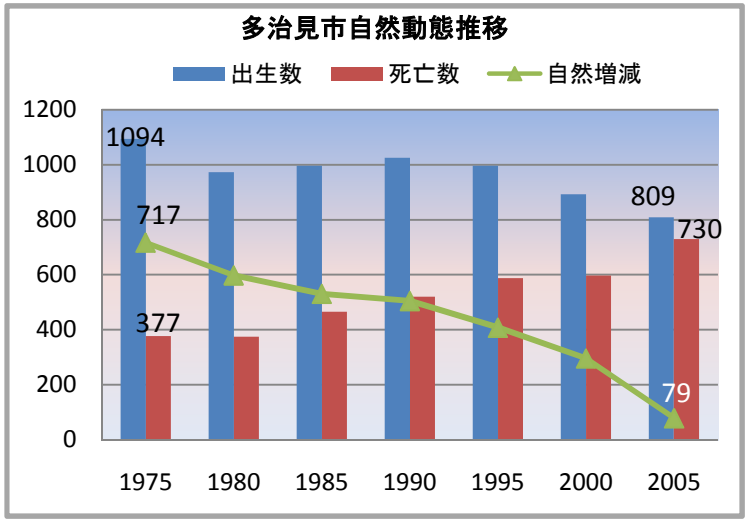

出典)「多治見市の人口と世帯2007年版」(多治見市総務課)
*基準日は1940年・1945年・1950年～1962年は10月1日、1963年以降は4月1日、1944年は2月22日、1946年は4月26日、1948年は8月1日、1949年は12月31日
・人口の将来推計は、岐阜県の将来構想研究会による

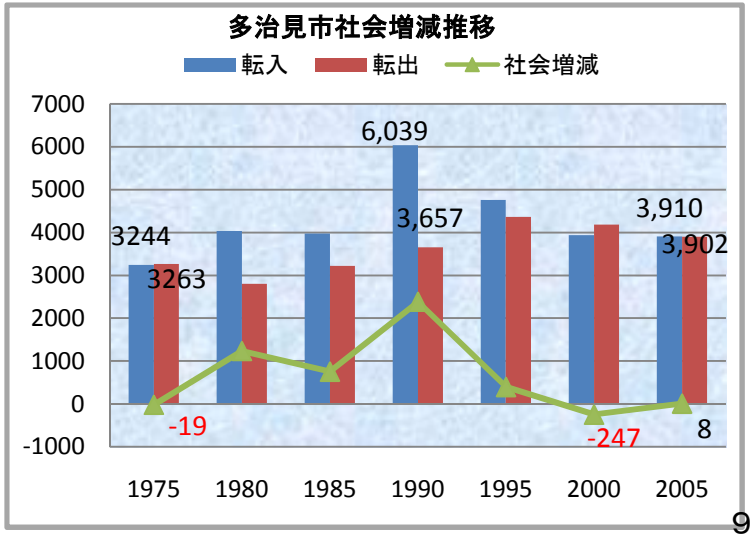
# 人口増減（多治見市）

多治見市の人口は1973年～1995年まで毎年1,000人以上増え、1975年に68千人だった人口は20年後の1995年には約1.5倍の102千人に増加した。
世帯数は現在も毎年500～600世帯づつ増加している。



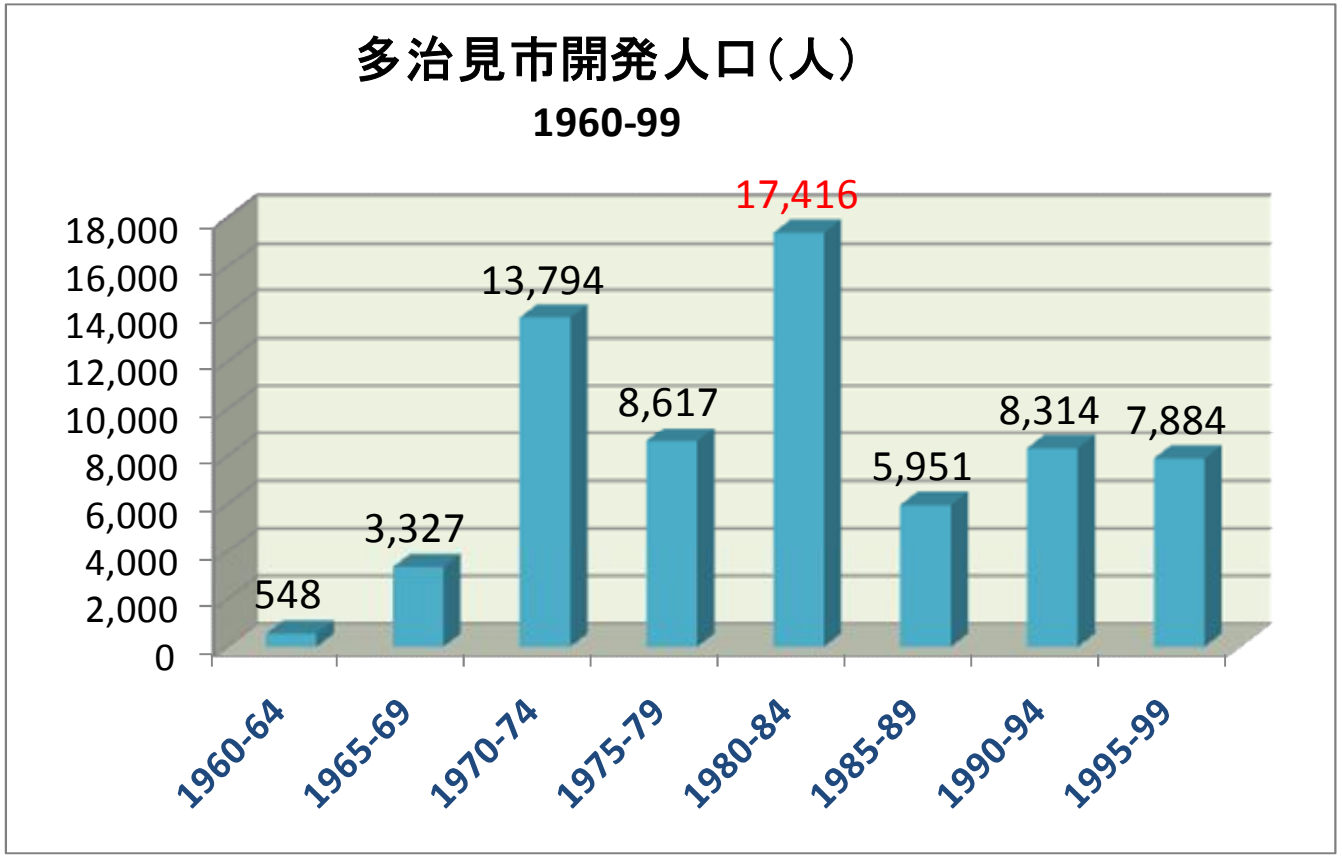

出典）「多治見市の人口と世帯2007年版」（多治見市総務課）



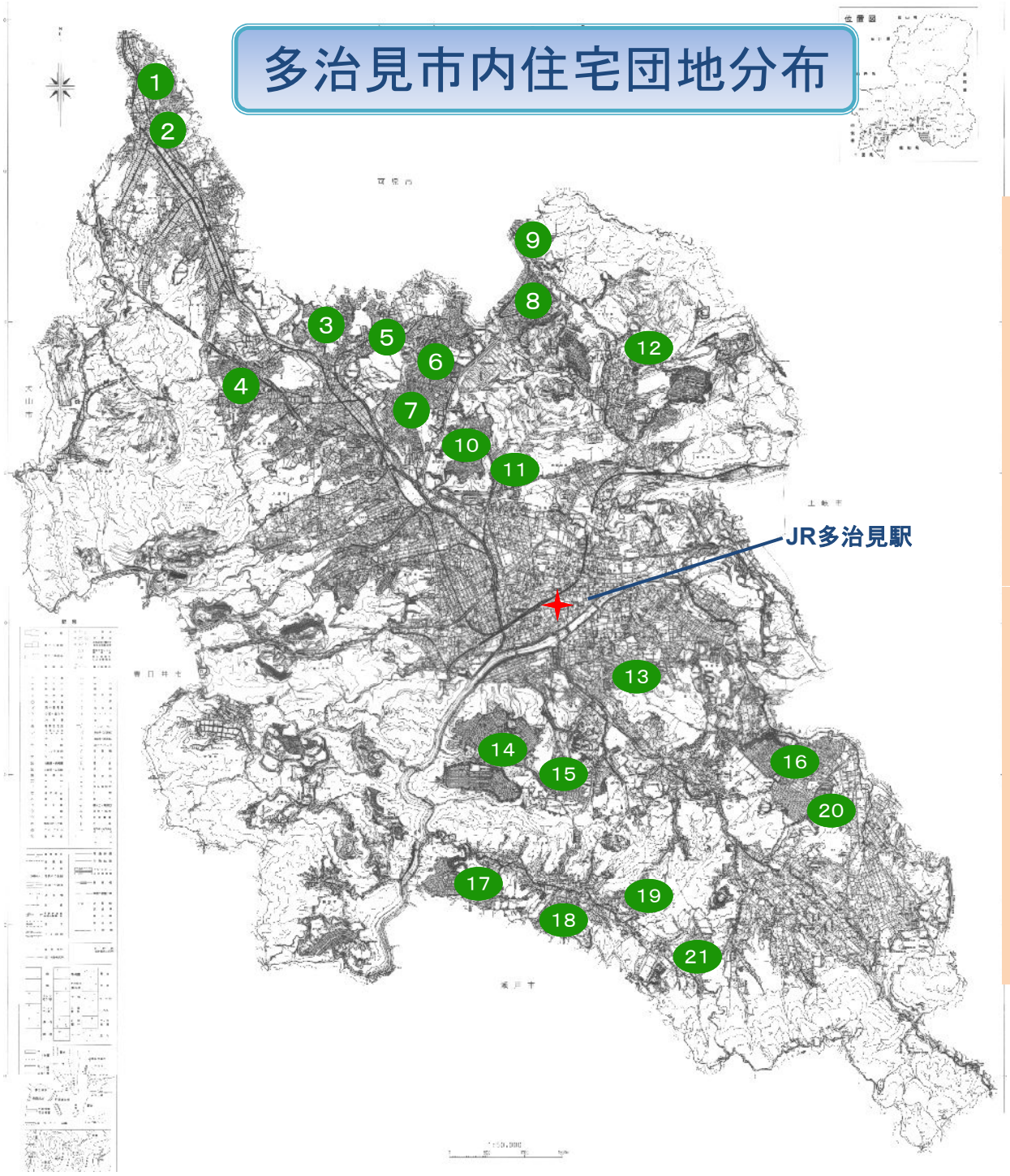
## 開発状況（多治見市）

多治見市は名古屋に近接する交通利便性の高さから、名古屋圏における通勤・通学者に居住機能を提供するベッドタウンとして、市内の郊外丘陵地を中心に住宅団地開発が行われてきた。
最盛期の1980～84年には5年間で17,416人分の住宅が供給されていた。




出典）「多治見市高齢化に伴う需要予測調査」（2002.3）

# 多治見市内住宅団地分布




| | | |
|---|---|---|
| 1 | 国京団地 | （408人） |
| 2 | 白山団地 | （1,088人） |
| 3 | 松風台 | （1,352人） |
| 4 | 北丘団地 | （2,382人） |
| 5 | 旭ヶ丘団地（1～3次） | （1,219人） |
| 6 | 旭ヶ丘団地（4～6次） | （4,729人） |
| 7 | 明和団地 | （3,807人） |
| 8 | 希望ヶ丘・ひばりヶ丘 | （2,993人） |
| 9 | 小滝苑 | （1,100人） |
| 10 | 名鉄緑台 | （2,486人） |
| 11 | 長瀬団地 | （491人） |
| 12 | 小名田ｸﾞﾘｰﾝﾋﾞﾚｯｼﾞ | （985人） |
| 13 | 前山団地・元町台 | （623人） |
| 14 | ホワイトタウン | （7,547人） |
| 15 | 多治見苑・ﾚｲﾝﾎﾞｰﾋﾙｽﾞ | （1,961人） |
| 16 | 滝呂台団地 | （6,137人） |
| 17 | 市之倉ハイランド | （3,963人） |
| 18 | 市之倉ニュータウン | （1,246人） |
| 19 | 愛岐パーク | （1,010人） |
| 20 | 向島住宅団地 | （741人） |
| 21 | 梅平団地 | （1,194人） |

*各団地の人口はH17(2005)国勢調査

ホワイトタウン
駅前マンション群
JR多治見駅

## 住宅団地状況

**2005年時点の多治見市内の住宅団地全体の高齢化率は13.7%で、多治見市の18.4%、岐阜県の21.0%に比べて若いと言えるが、既に県平均を超えている高齢化率の高い団地も出てきている。**

### ■多治見市内住宅団地調査

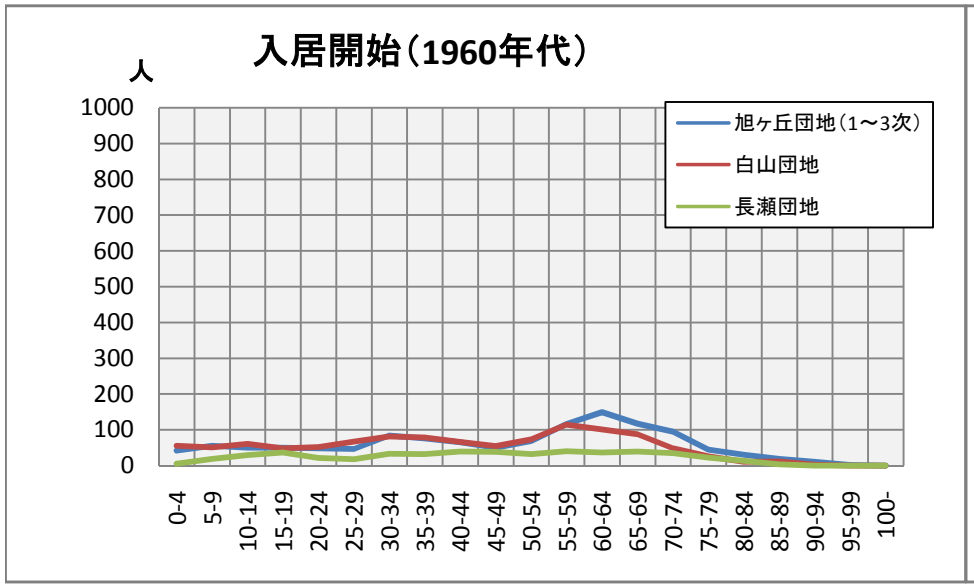
平成17年度国勢調査により作成

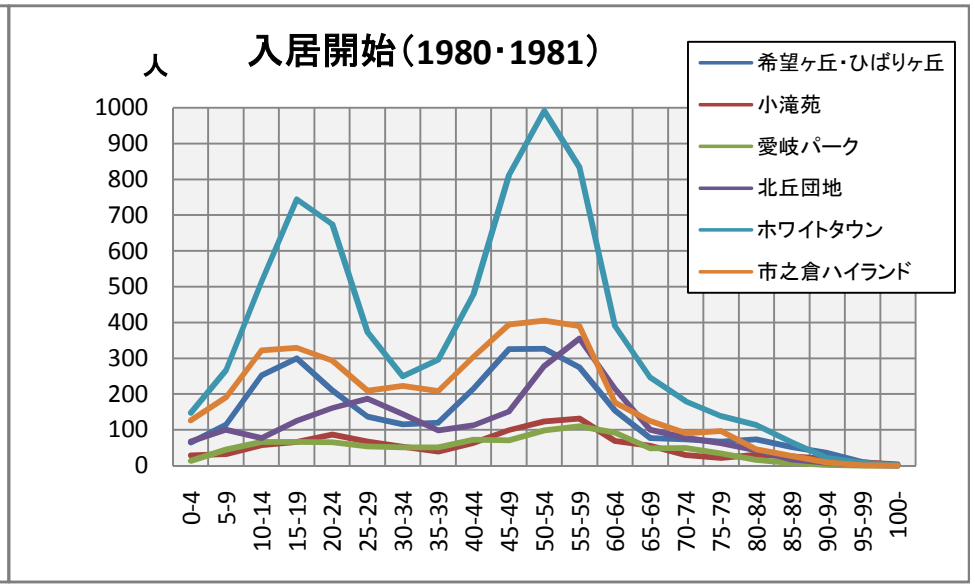
| 団地名 | 所在地 | 開発時期（着工年度） | 入居開始年度 | 計画面積(ha) | 計画戸数（戸） | 世帯数 | 総人口 | 65歳以上人口 | 高齢化率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国京団地 | 姫町7丁目 | S58.11 | S60.4 | 6.39 | 74 | 158 | 408 | 26 | 6.4% |
| 白山団地 | 姫町5～6丁目 | S42.12 | S44.4 | 7.6 | 337 | 382 | 1,088 | 187 | 17.2% |
| 松風台 | 松坂町4～5丁目 | S47.11 | S50.1 | 13.89 | 409 | 459 | 1,352 | 193 | 14.3% |
| 北丘団地 | 北丘町4～5、7～8丁目 | S50.3 | S56.4 | 45.27 | 791 | 786 | 2,382 | 311 | 13.1% |
| 旭ヶ丘団地（1～3次） | 旭ヶ丘1～6丁目 | S38.10 | S39.5 | 15.59 | 399 | 436 | 1,219 | 319 | 26.2% |
| 旭ヶ丘団地（4～6次） | 旭ヶ丘7～8、10丁目 | S44.6 | S51.8 | 48.81 | 1,543 | 1,250 | 4,729 | 683 | 14.4% |
| 明和団地 | 明和町2～4丁目 | S46.6 | S49.10 | 56.66 | 1,008 | 1,269 | 3,807 | 679 | 17.8% |
| 希望ヶ丘・ひばりヶ丘 | 希望ヶ丘1～4丁目、小名田町西ヶ洞 | S53.1 | S55.10 | 45 | 911 | 839 | 2,993 | 389 | 13.0% |
| 小滝苑 | 小名田小滝 | S49.6 | S55.8 | 18.92 | 377 | 342 | 1,100 | 189 | 17.2% |
| 名鉄緑台 | 西坂町1～5丁目 | S59.8 | S62.10 | 50.49 | 1,062 | 743 | 2,486 | 220 | 8.8% |
| 長瀬団地 | 長瀬町 | S40.8 | S44.10 | 11 | 157 | 168 | 491 | 113 | 23.0% |
| 小名田ｸﾞﾘｰﾝﾋﾞﾚｯｼﾞ | 小名田町6丁目 | S60.12 | S63.12 | 14.62 | 319 | 284 | 985 | 64 | 6.5% |
| 前山団地・元町台 | 平野町4丁目、元町2丁目 | S45.12 | S48.4 | 11.15 | 250 | 211 | 623 | 182 | 29.2% |
| ホワイトタウン | 脇之島町3～8丁目 | S52.12 | S56.3 | 120.29 | 2,479 | 2,348 | 7,547 | 775 | 10.3% |
| 多治見苑・ﾚｲﾝﾎﾞｰﾋﾙｽﾞ | 大畑町大洞、西仲根、赤松 | S45.11 | S48.1 | 22.01 | 562 | 642 | 1,961 | 347 | 17.7% |
| 滝呂台団地 | 滝呂町9, 12, 14, 17丁目 | S44.4 | S49.1 | 102.65 | 2,735 | 1,882 | 6,137 | 765 | 12.5% |
| 市之倉ハイランド | 市之倉町11～13丁目 | S55.4 | S56.9 | 51.58 | 1,206 | 1,195 | 3,963 | 394 | 9.9% |
| 市之倉ニュータウン | 市之倉町5～7丁目 | S47.7 | S48.5 | 16.58 | 439 | 406 | 1,246 | 255 | 20.5% |
| 愛岐パーク | 市之倉町1丁目 | S52.12 | S55.4 | 7.01 | 158 | 319 | 1,010 | 156 | 15.4% |
| 向島住宅団地 | 笠原町向島 | S63.4 | H9.12 | 13.66 | 207 | 212 | 741 | 不明 | |
| 梅平団地 | 笠原町梅平 | S47.2 | S49.2 | 15.8 | 424 | 402 | 1,194 | 不明 | |

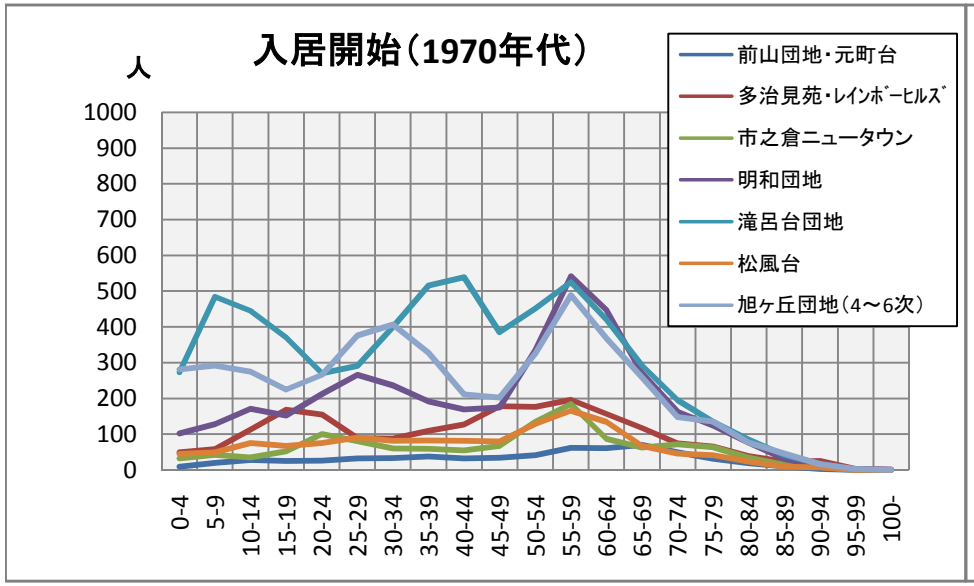
## 今後、断続的に市内の各団地が急激な高齢化に直面していくことになる

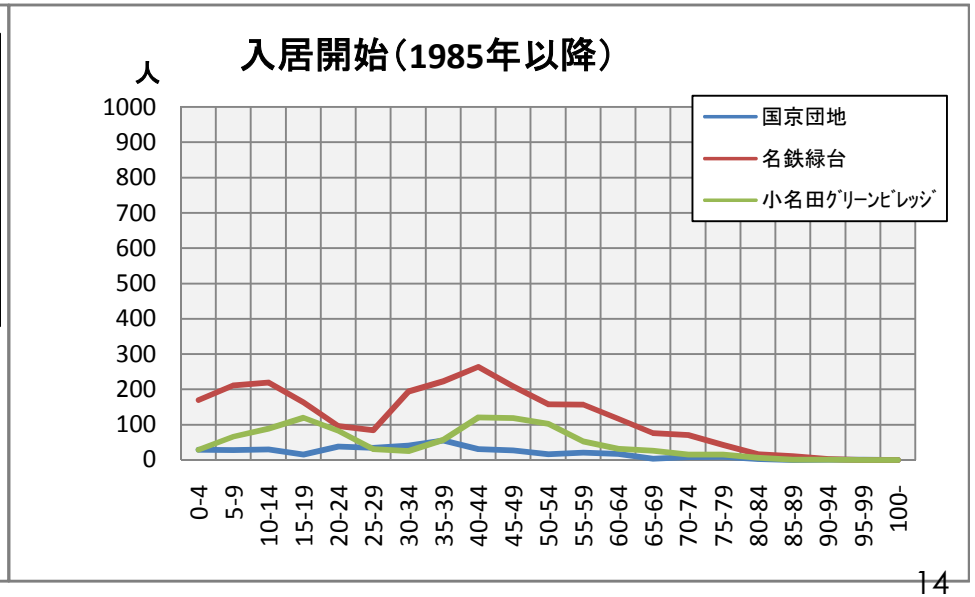
### 多治見市内の住宅団地の開発年代別年齢構成

H17（2005）国勢調査により作成



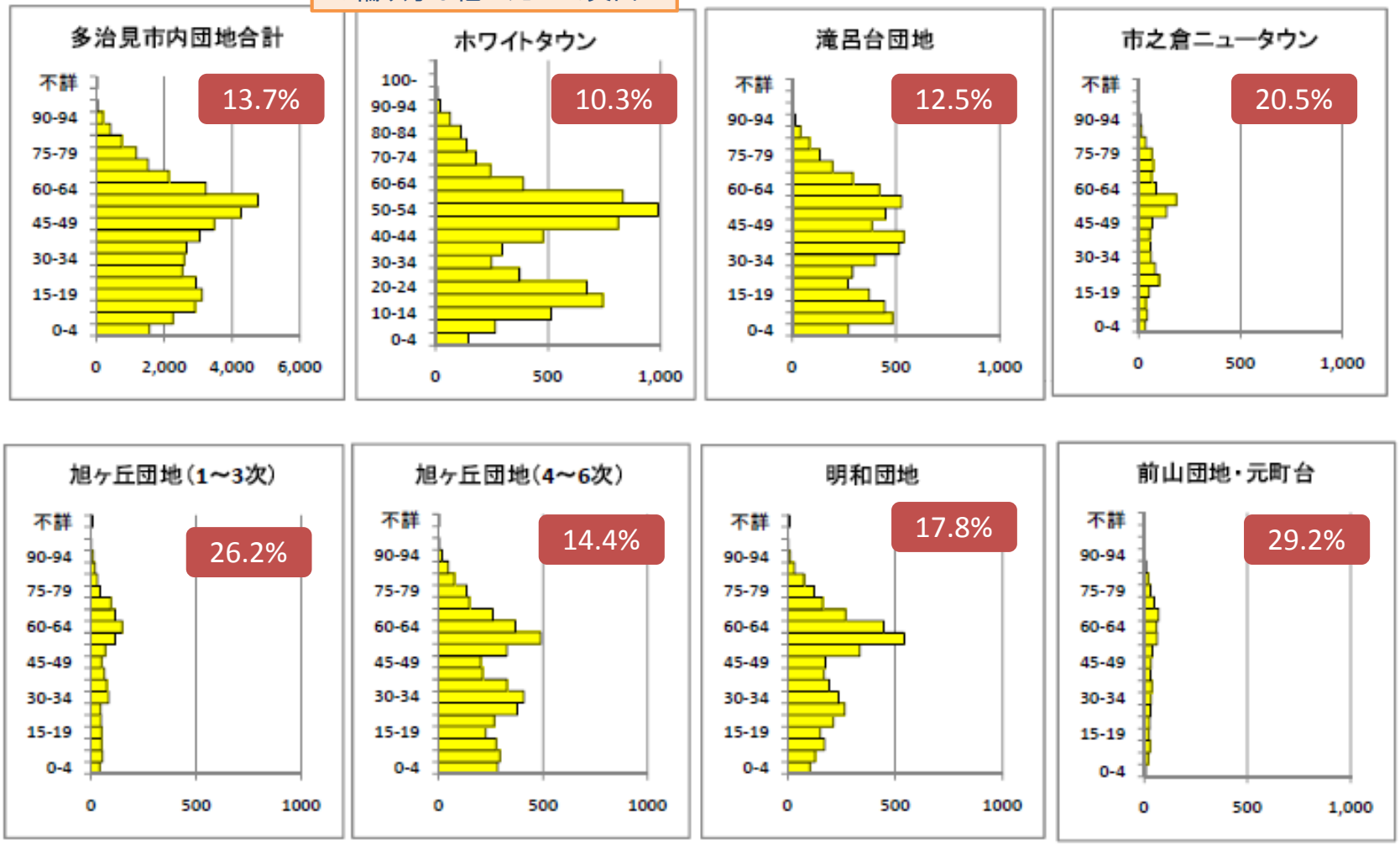



高齢化率

# 多治見市内主要団地の人口分布

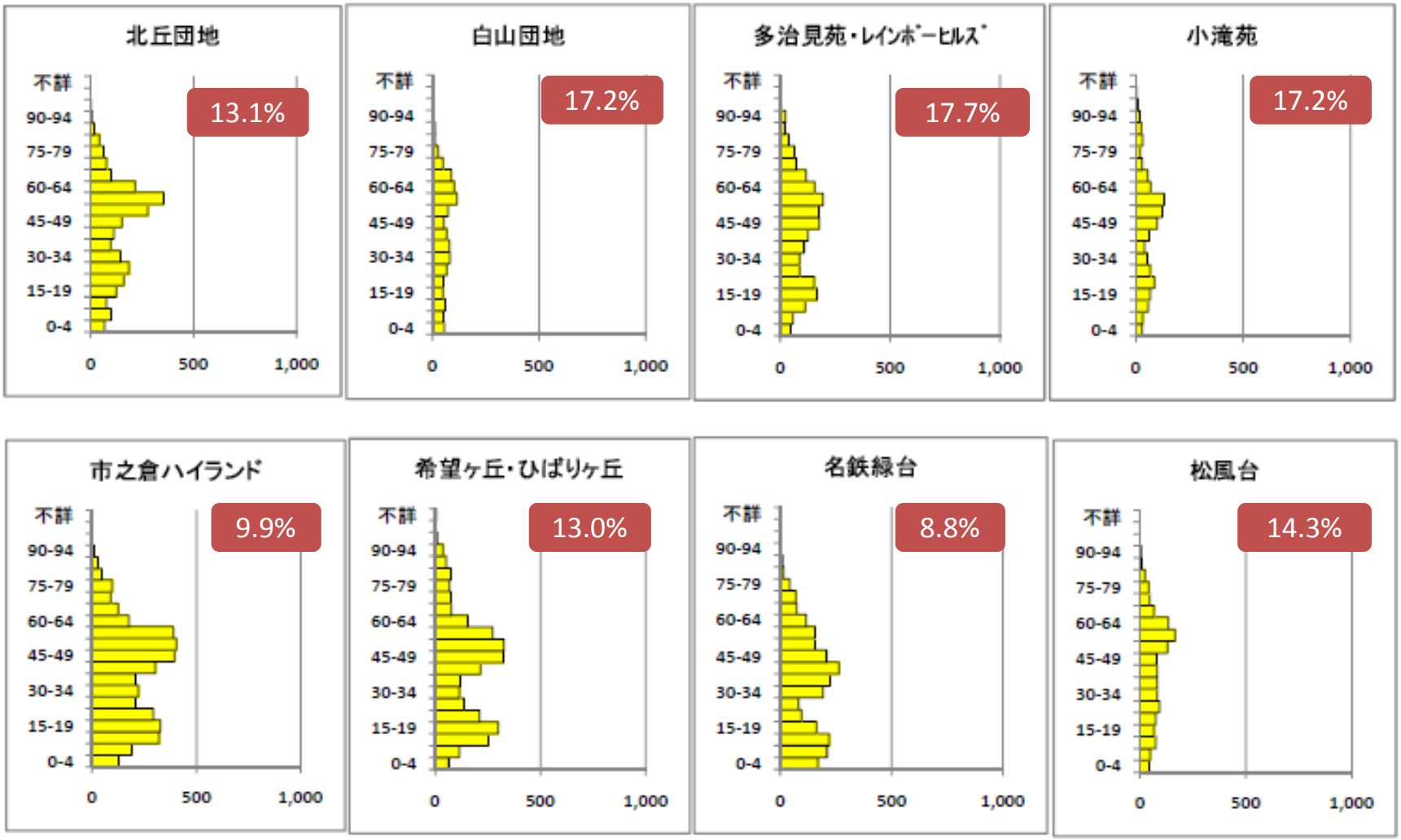
ホワイトタウンの特定世代への偏り方は他に比べて突出




*平成17年度国勢調査データにより作成

高齢化率

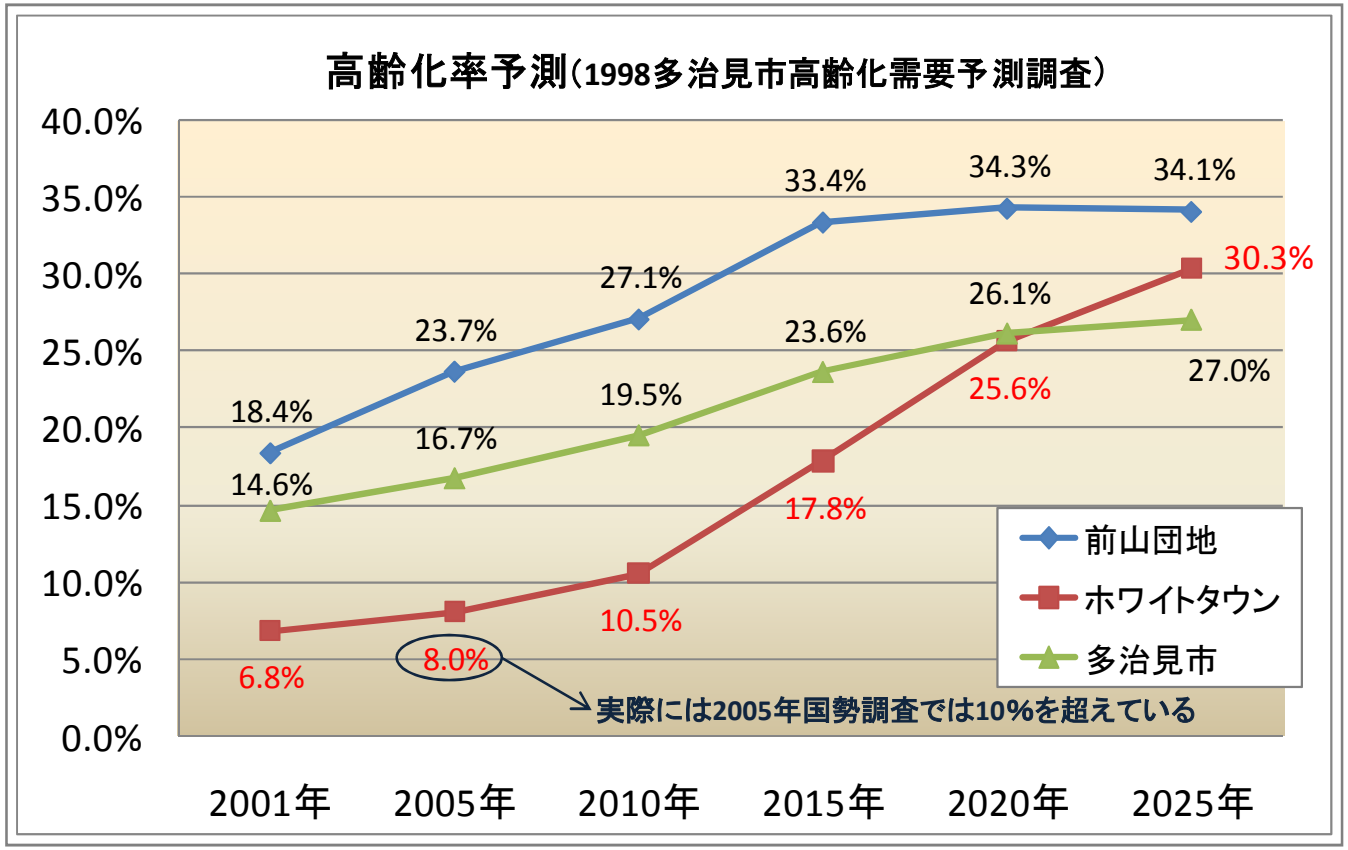
# 多治見市内主要団地の人口分布②




*平成17年度国勢調査データにより作成

## 高齢化予測

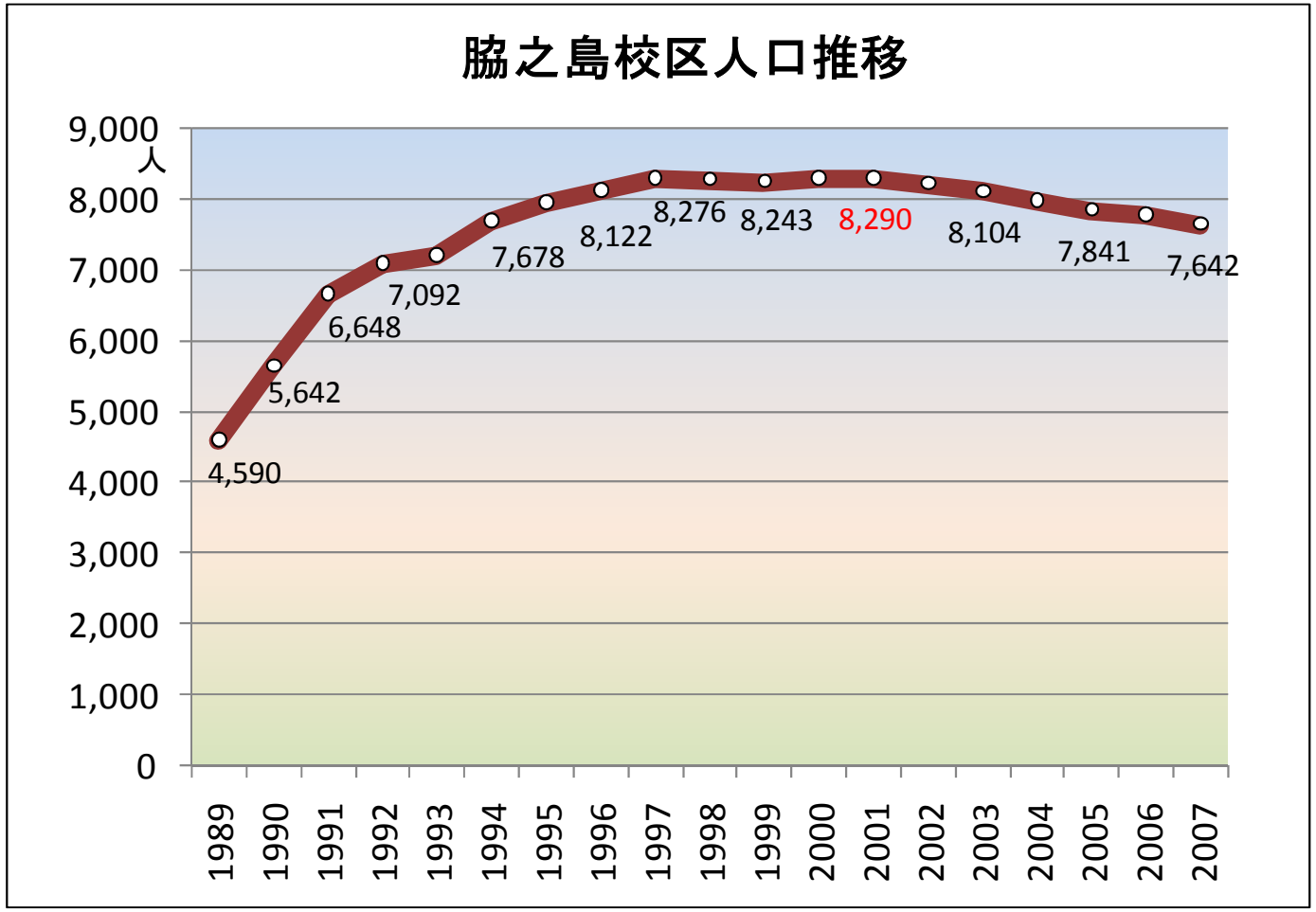
ホワイトタウンの高齢化率は今後急激に上昇し、2021年頃には多治見市全体の高齢化率を抜き、2025年には30%を超えると予測されている。




出典)「多治見市高齢化に伴う需要予測調査報告書」(2003.3)における推計値

## 人口推移（脇之島）

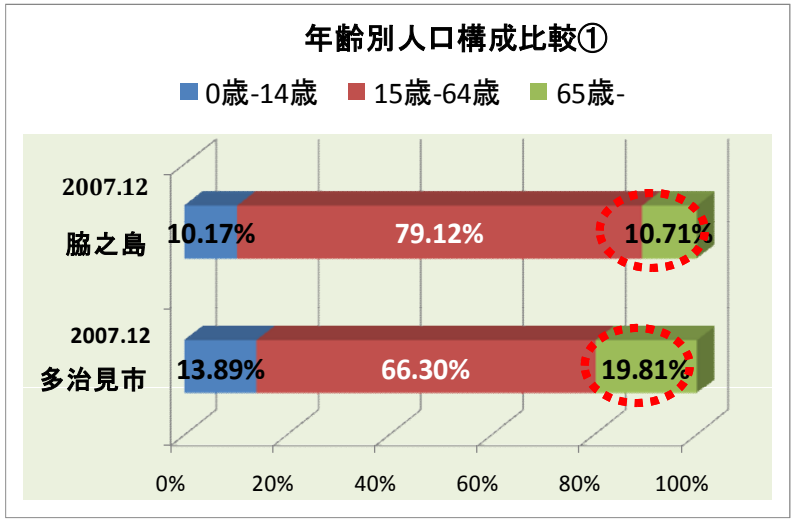
脇之島校区（ホワイトタウン）の人口は1995年頃からほぼ横ばいであったが、2001年をピークに減少に転じ、2007年の人口はピーク時と比べて約8％減少している

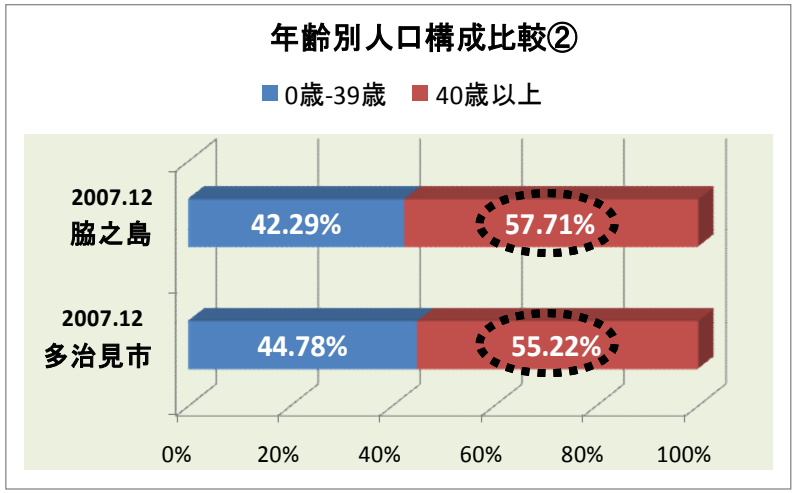


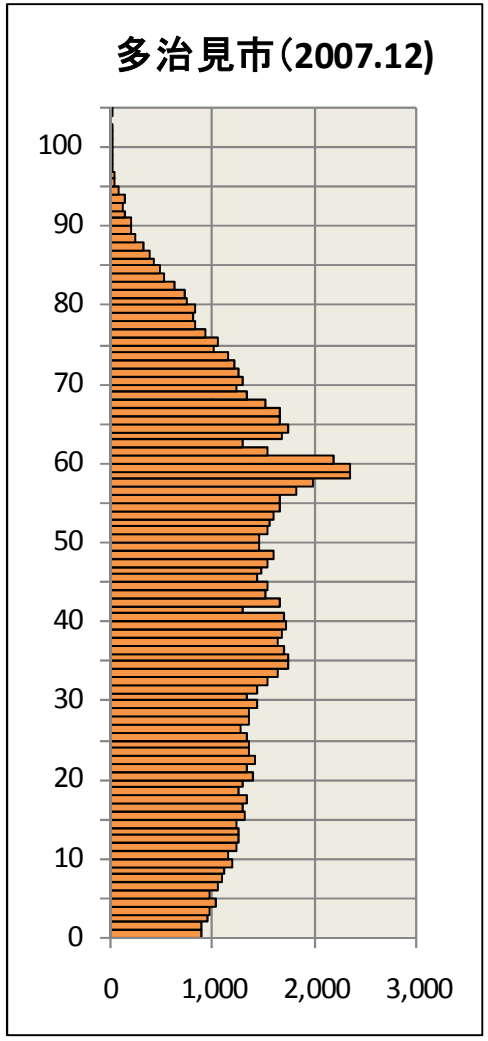

（出典）「多治見市の人口と世帯」（多治見市総務課作成）

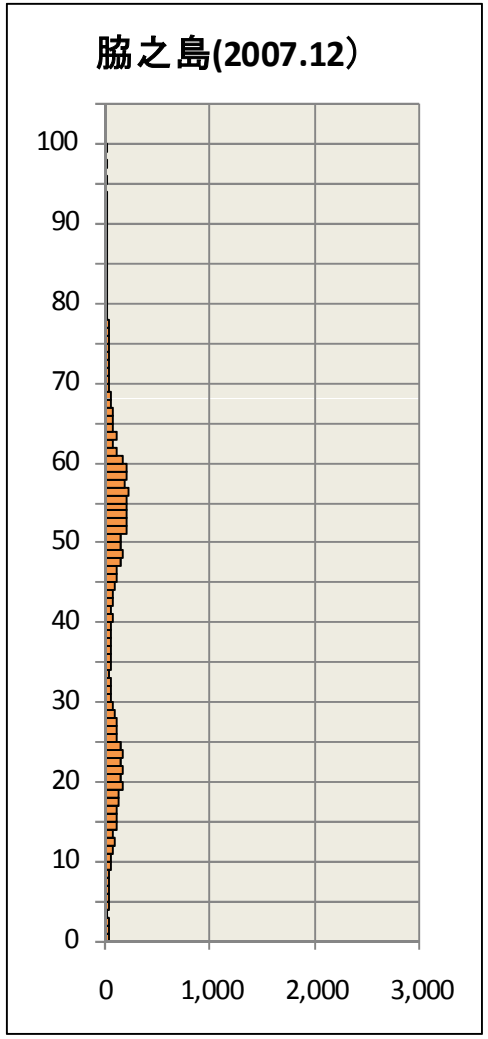
# 人口構成比較（多治見市と脇之島）

**2007年12月時点では脇之島校区の高齢化率は多治見市より9ポイント以上低いが、人口に40歳以上が占める割合では既に多治見市を上回っている。また、年少者が人口に占める割合は多治見市よりも3ポイント低く、市内の校区では最も低い。**



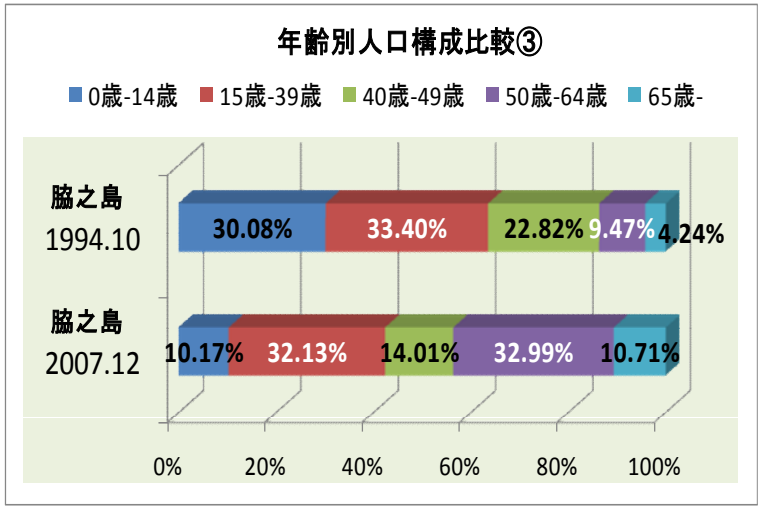



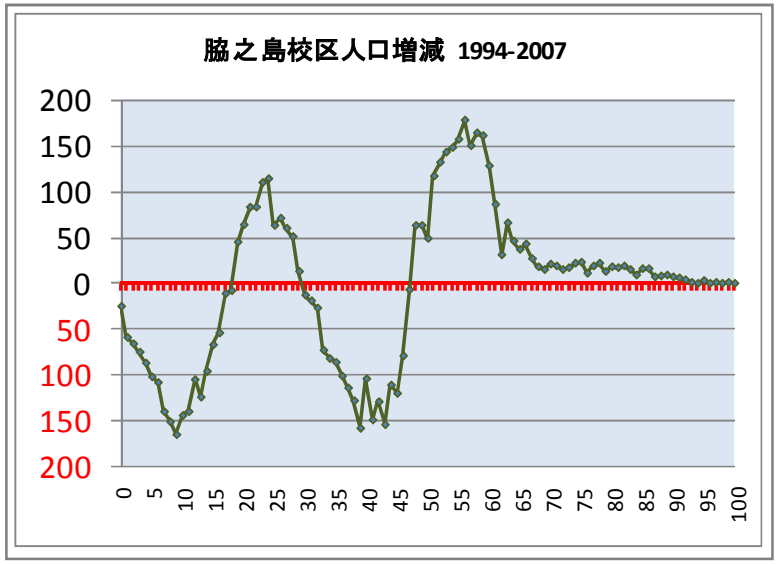



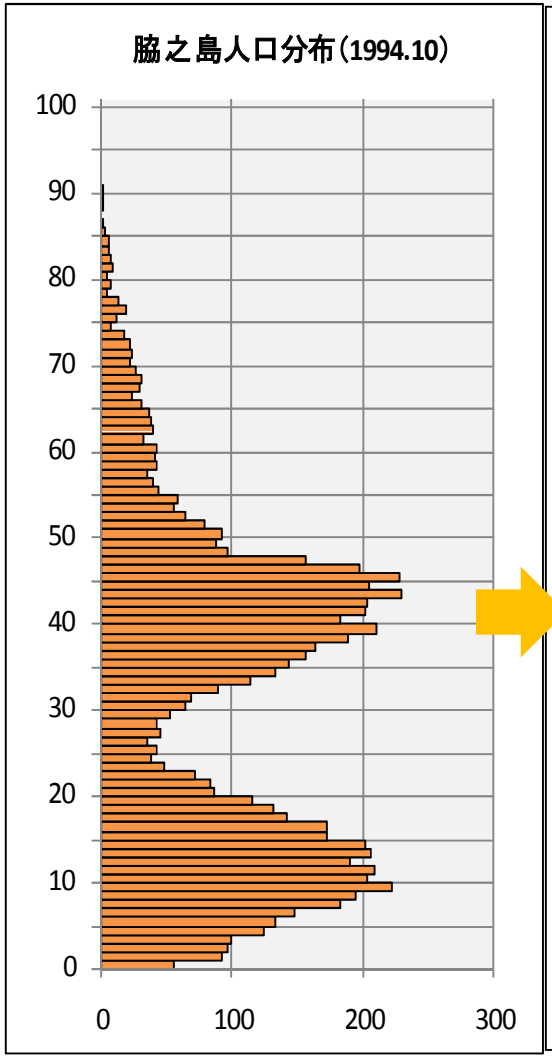

多治見市市民課Dataにより作成

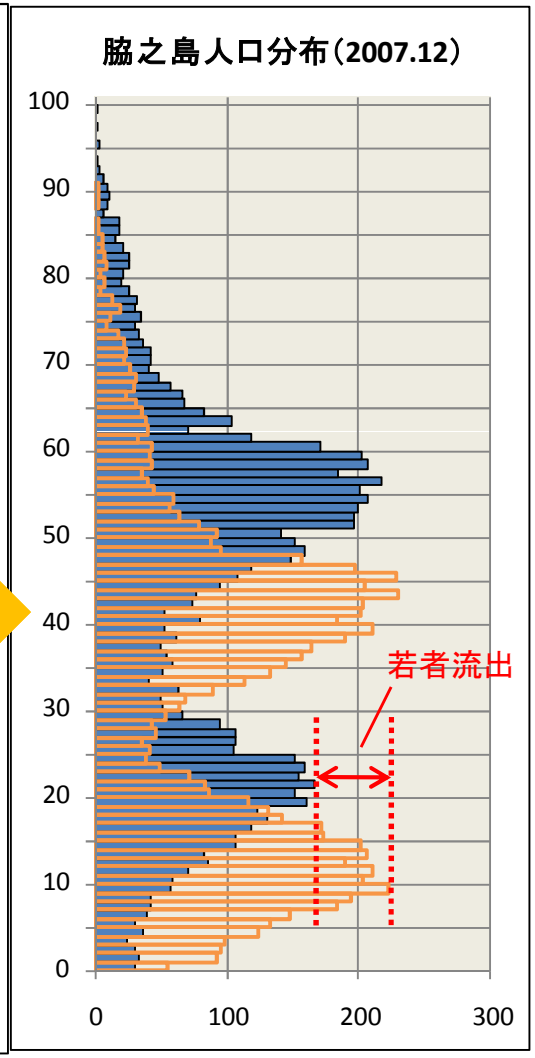
# 人口構成比較（脇之島1994年と2007年）

1994年と2007年で脇之島校区の人口構成を比較すると、年少者の割合が3分の1になった反面、高齢者の割合は2.5倍になっている。13年前に比べて第2世代の山が低くなっていることから、**結婚や就職を機に団地から第2世代が流出していると想定される。**



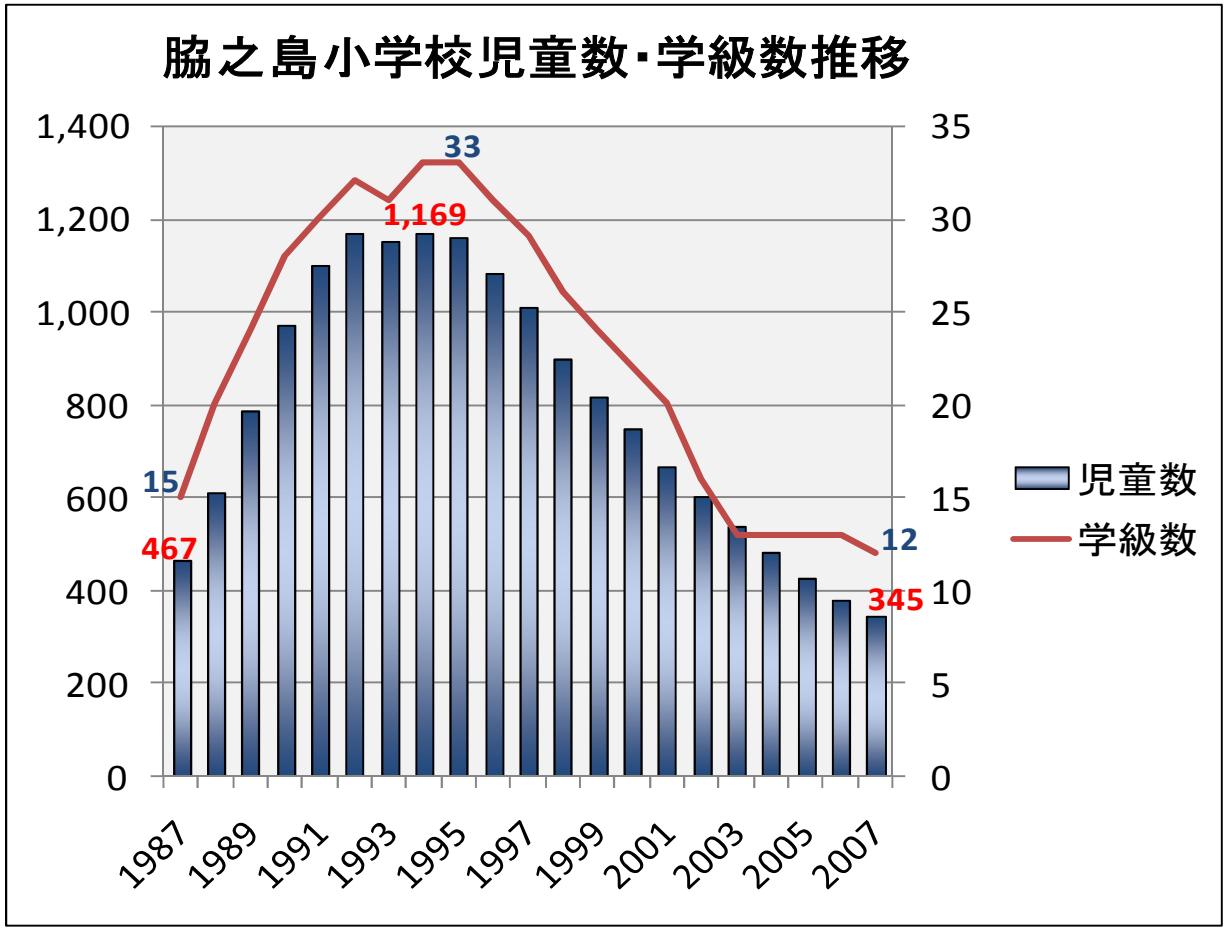




多治見市市民課Dataにより作成

## 小学校

脇之島小学校は児童数、学級数ともに急速に減少しており、**児童数はピーク時の29%、学級数はピーク時の36%**程度になっている。昨年度までは各学年2クラスづつであったが、今年度4月に入学した新一年生は数が少なく1クラスになった。**ホワイトタウンでは既に急激な少子化が進行している**




脇之島小学校ホームページのDataにより作成

## 小学校

脇之島小学校では空き教室をPC教室や低学年用の図書室に転用（常設）
それ以外に英語活動専用の教室や算数の少人数指導（2つのクラスを3つに分けて指導）に使う学習室、大きな掲示物などを制作する部屋、PTAの会議室等に活用している。

空き教室活用①英語活動専用教室

空き教室活用②学習室

空き教室活用③低学年用図書室

児童が減ると施設に余裕が出る一方で児童の減少に伴って学級が減り、教員が減っても、授業や児童の安全管理以外の業務は減らないので、教員が児童に向き合える時間は逆に減ってしまう可能性がある。

小学校

## 関係者インタビュー（脇之島小学校校長）

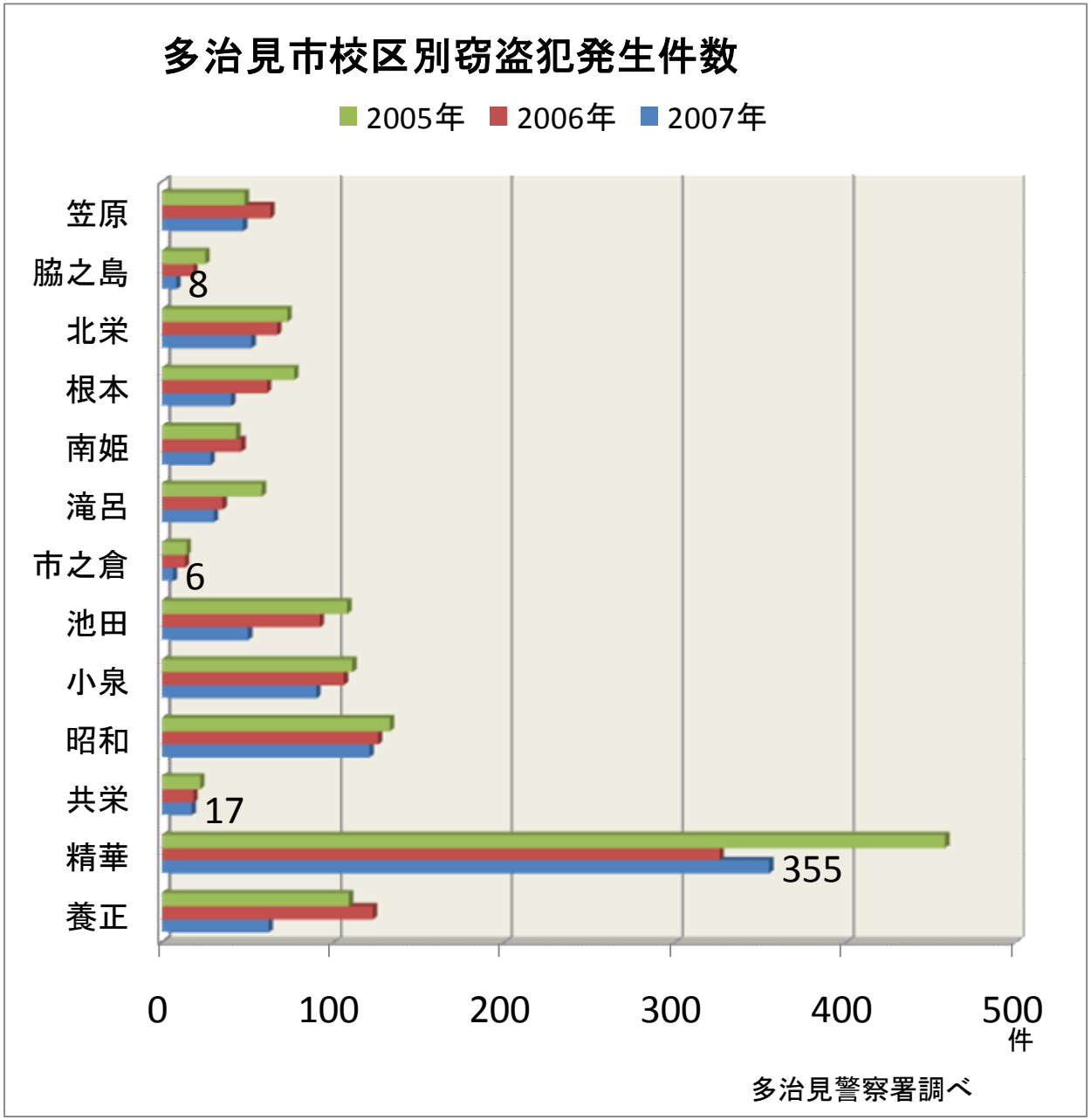
・１学年１クラスになると運動会でクラス対抗（紅白）ができなくなる。ホワイトタウンの運動会も今年でなくなるので、今後は地域との連携も考えていく必要がある。
・児童の数が減って１学年４０人以下になると1クラス減り、教員が減ることになる。授業やこどもの安全管理以外に調査や研修があり、こどもが帰った後は職員会議をはじめとする各種会議や授業の準備、父兄への対応に追われる、さらに心の教育や環境教育等新しいテーマへの対応等、児童が減っても業務量は増加している実感があり、教員が減ることで一人当たりの負担は増す。
その結果、こどもと向き合う時間の減少、安全管理面で目が行き届きにくくなる可能性がある。
・教員が減るとトラブルやアクシデントのときに対応できる人員が足りなくなるおそれがある。
・地域との関わりで言うと、総合学習で4年生が独居老人を学校に招いて一緒に給食を食べる「ふれあい給食会」という授業を実施しており、19年度は80人の方に参加頂いている。
・以前３年生が団地内の公園を調査したことがあったが、その時おばあさんが来られて、「久しぶりにこどもの声を聞いた。こどもの声はいいね。」と言われていたのが印象的だった。
・今後は余裕教室を活用して、こどもたちと地域住民とがふれあえるような場を作っていけたらと思う。

## 治　安

**窃盗犯の発生は団地地区（市之倉、脇之島、共栄）では極めて少なく、市街地（精華）の発生件数の20分の1～60分の1程度である。**

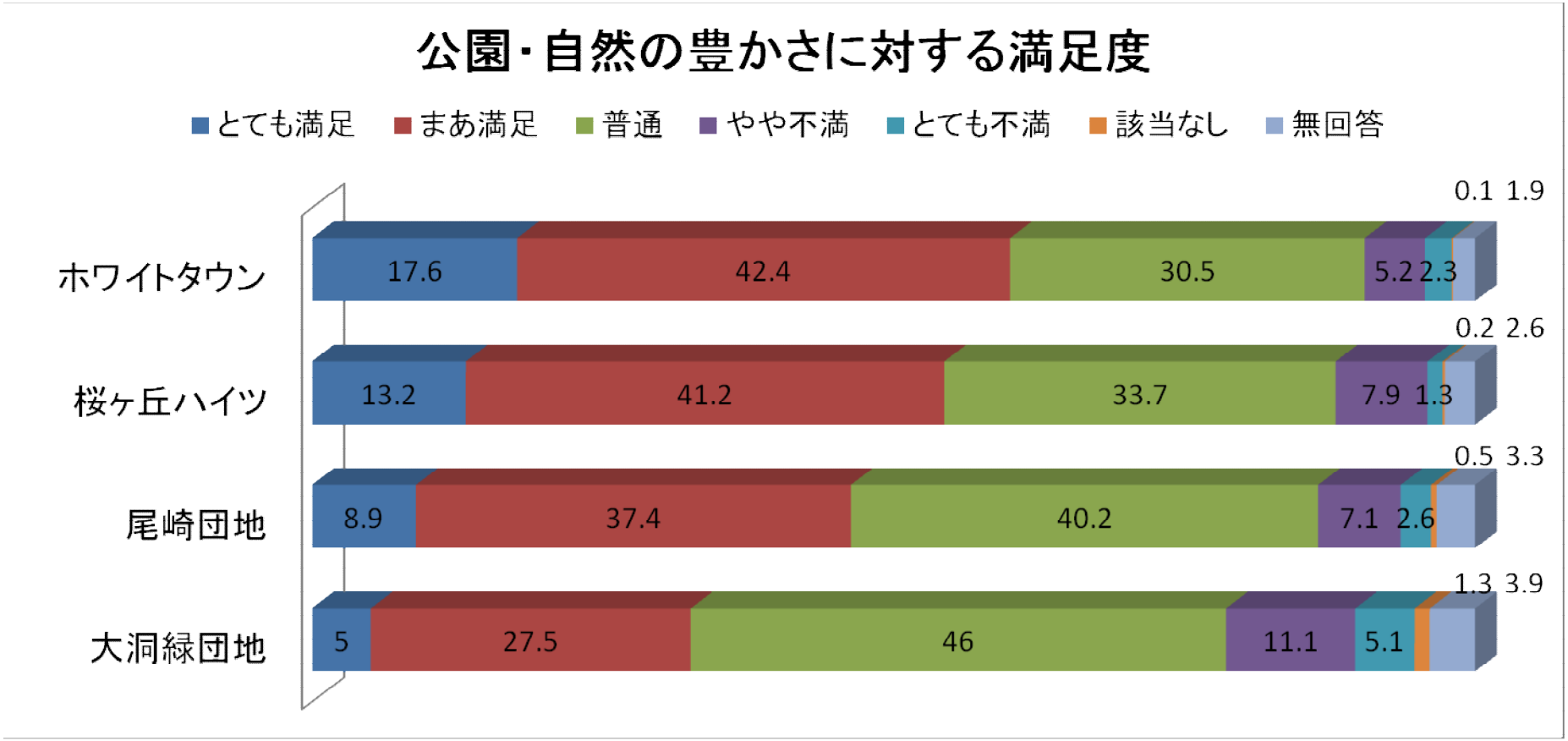
| 校　区 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|---|---|---|---|
| 養正 | 109 | 123 | 62 |
| 精華 | 458 | 326 | 355 |
| 共栄 | 22 | 18 | 17 |
| 昭和 | 133 | 126 | 121 |
| 小泉 | 111 | 106 | 90 |
| 池田 | 108 | 92 | 50 |
| 市之倉 | 14 | 13 | 6 |
| 滝呂 | 58 | 35 | 30 |
| 南姫 | 43 | 46 | 28 |
| 根本 | 77 | 61 | 40 |
| 北栄 | 73 | 67 | 52 |
| 脇之島 | 25 | 18 | 8 |
| 笠原 | 48 | 63 | 47 |
| 計 | 1,279 | 1,094 | 906 |

多治見警察署調べ



## 公園・自然の豊かさ

**ホワイトタウンには公園が多く、国土交通省が実施したアンケートによると、6割の人が団地周辺の「自然の豊かさ」に満足している。**




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931、大洞緑団地（1150→992、尾崎団地1100→818、桜ヶ丘1000→469

## 防災（消防団）

**脇之島分団は町内会で団員を補充するシステムが機能しており、団員の定員充足率は高いが、団員はほとんどがサラリーマンで平日昼間はほとんど家にいない。また、団員の平均年齢は市内で最も高齢（49歳）で多治見市全体の平均年齢より10歳以上高い。**

### 消防団員定員充足率推移

| | 多治見市（全体） | 脇之島分団 |
|---|---|---|
| 1991 | 94.4% | 100.0% |
| 1992 | 89.2% | 100.0% |
| 1993 | 87.7% | 93.8% |
| 1994 | 87.2% | 87.5% |
| 1995 | 86.9% | 100.0% |
| 1996 | 86.9% | 90.6% |
| 1997 | 88.5% | 100.0% |
| 1998 | 88.2% | 100.0% |
| 1999 | 92.4% | 100.0% |
| 2000 | 90.5% | 100.0% |
| 2001 | 90.8% | 96.9% |
| 2002 | 91.0% | 100.0% |
| 2003 | 91.5% | 93.8% |
| 2004 | 91.5% | 100.0% |
| 2005 | 89.6% | 100.0% |
| 2006 | 91.8% | 100.0% |
| 2007 | 90.5% | 87.5% |

多治見市消防本部調べ

### 多治見市消防団分団別平均年齢

2008. 2. 1現在

| 分団名 | 平均年齢（歳） |
|---|---|
| 中央南 | 35.0 |
| 中央北 | 35.1 |
| 共栄 | 35.0 |
| 小泉 | 35.7 |
| 池田 | 39.2 |
| 市之倉 | 37.9 |
| 滝呂 | 38.0 |
| 南姫 | 35.1 |
| 池田南 | 38.9 |
| 北栄 | 48.6 |
| 脇之島 | 49.4 |
| 滝呂台 | 44.6 |
| 根本 | 39.6 |
| 笠原第一 | 35.4 |
| 笠原第二 | 36.2 |
| 笠原第三 | 35.0 |
| 音楽隊 | 30.4 |
| 多治見市全体 | 38.4 |

平均年齢が高い上位３つは団地地区の消防団が占めている

多治見市消防本部調べ

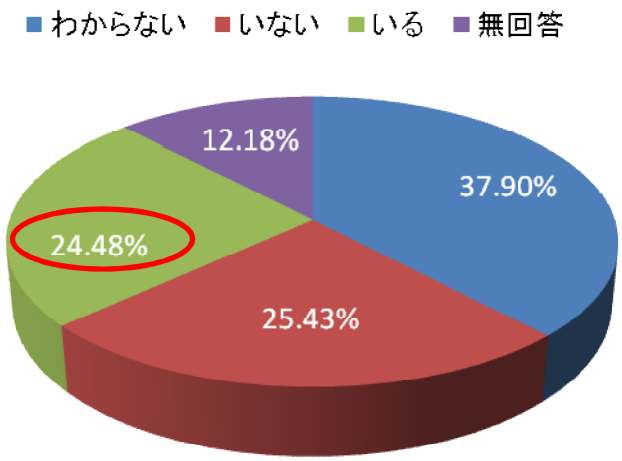
## 関係者インタビュー（脇之島分団・分団長）

・脇之島では退団者が出ても各町内が責任を持って欠員を埋めてきた。
・以前に比べて、各町内から団員確保に苦慮しているという声を聞くことが増えてきたので、これから先、団員確保が困難になる予感がある。
・団員は一部を除いて、基本的にはみんなサラリーマンとして名古屋に通勤している人が多い。したがって、平日の昼間はほとんどいないし、帰ってくる時間も21時以降になる人が多い。
・定期訓練は日曜日の朝しか実施できない。
・操法大会の代表に当たると早朝4時30分くらいから練習していた。
・防災訓練は年1回、区主催で区の役員と一緒に実施しているが、住民の関心は薄く、参加する人は少ない。

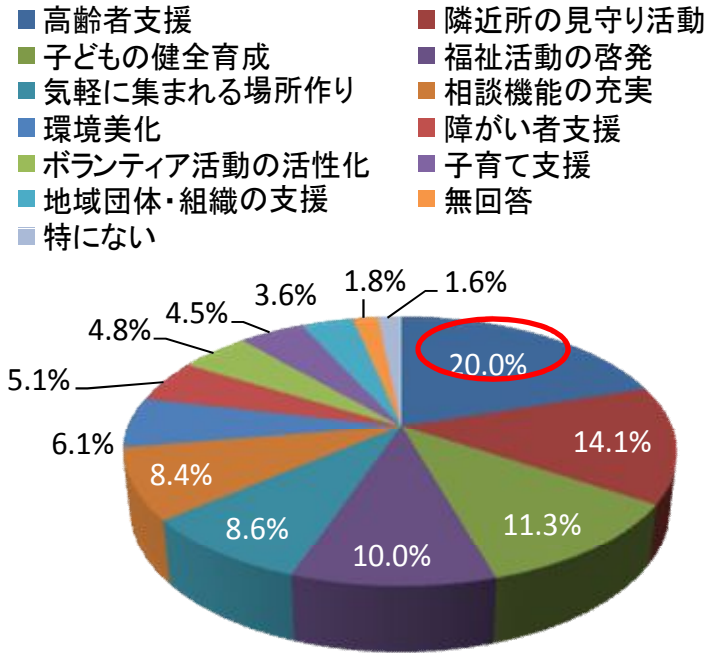
## 防災（災害時要援護者）

多治見市社会福祉協議会の調査によると、アンケートに答えた脇之島地域住民のうち、**4分の1の人が災害時に支援が必要な人（災害時要援護者）が近所にいると答えており**、5分の1の人が高齢者支援を必要な施策のトップに挙げている。
**→高齢化が進むと災害時要援護者支援が困難となる→多世代混住の推進が急務**

災害時に支援が必要な人が近所にいるか？




今、地域で必要な施策は何か？

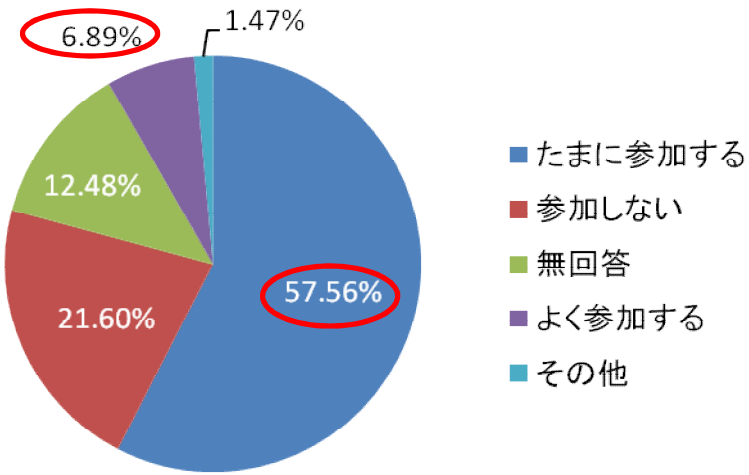



脇之島地域災害アンケート調査：2007年10月
（社会福祉法人多治見市社会福祉協議会）
脇之島地域全世帯（2,339世帯）を対象に実施
回収数1,699世帯（回収率72.6%）

## 地域とのつながり

社会福祉協議会のアンケートによると、脇之島地域の人の6割以上が地域の行事に参加する（たまに参加する含む）と答えているが、一方で、60歳以上の方の老人クラブへの加入率が極めて低く、長い間職場（名古屋）と住まい（多治見）が分離した生活を送っていて地域になじみの少ない人が多いことが想定される。

地域の行事への参加について




老人クラブ加入率（2007.4.1現在）

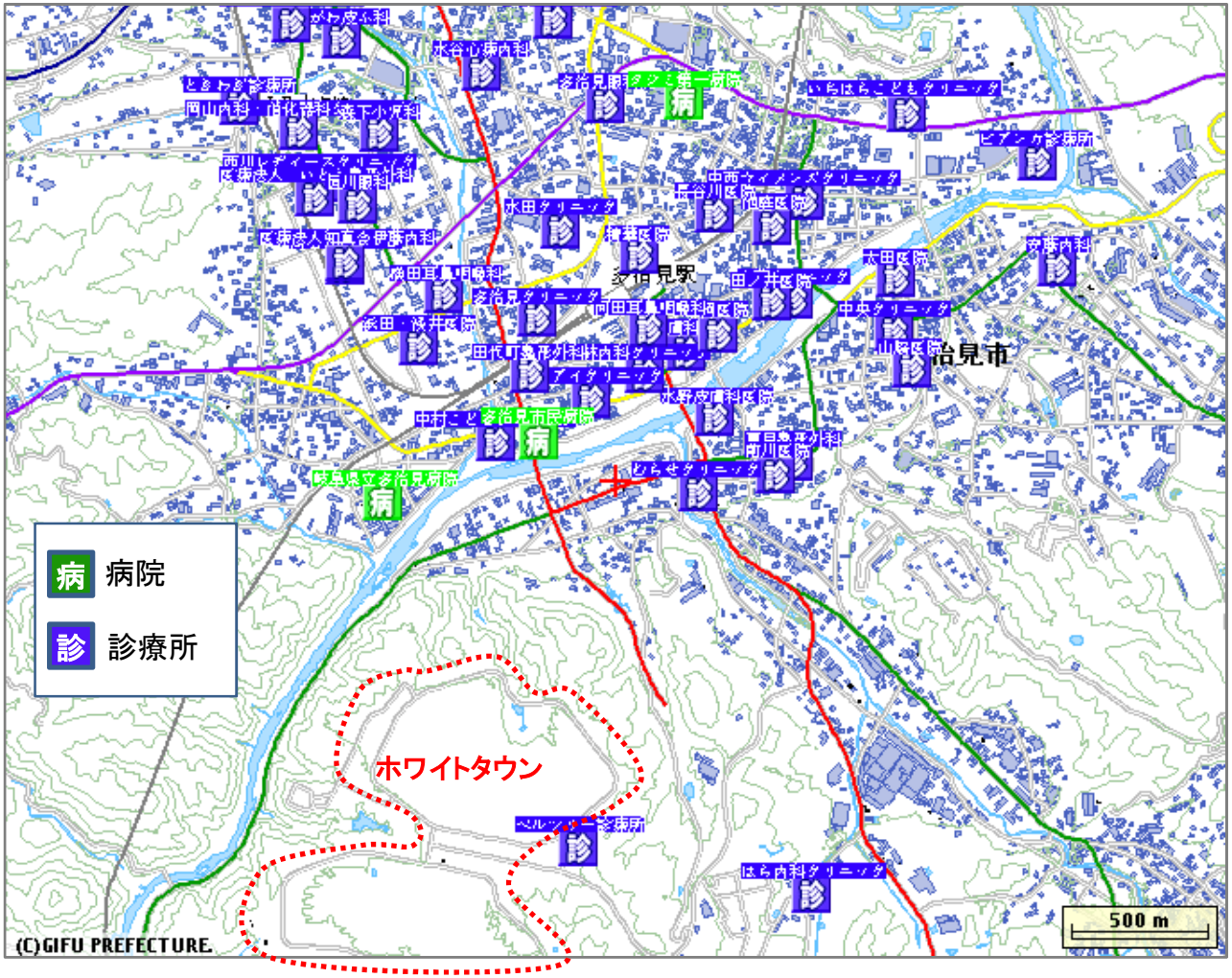
| | 60歳以上人口 | 老人クラブ加入者数 | 老人クラブ加入率 |
|---|---|---|---|
| 多治見市 | 30，628人 | 4，191人 | 13．7% |
| 脇之島校区 | 1，236人 | 51人 | 4．1% |

多治見市福祉課調べ

**脇之島地域災害アンケート調査：2007年10月**
（社会福祉法人多治見市社会福祉協議会）
・脇之島地域全世帯（2,339世帯）を対象に実施
・回収数1,699世帯（回収率72.6%）

## 病　院

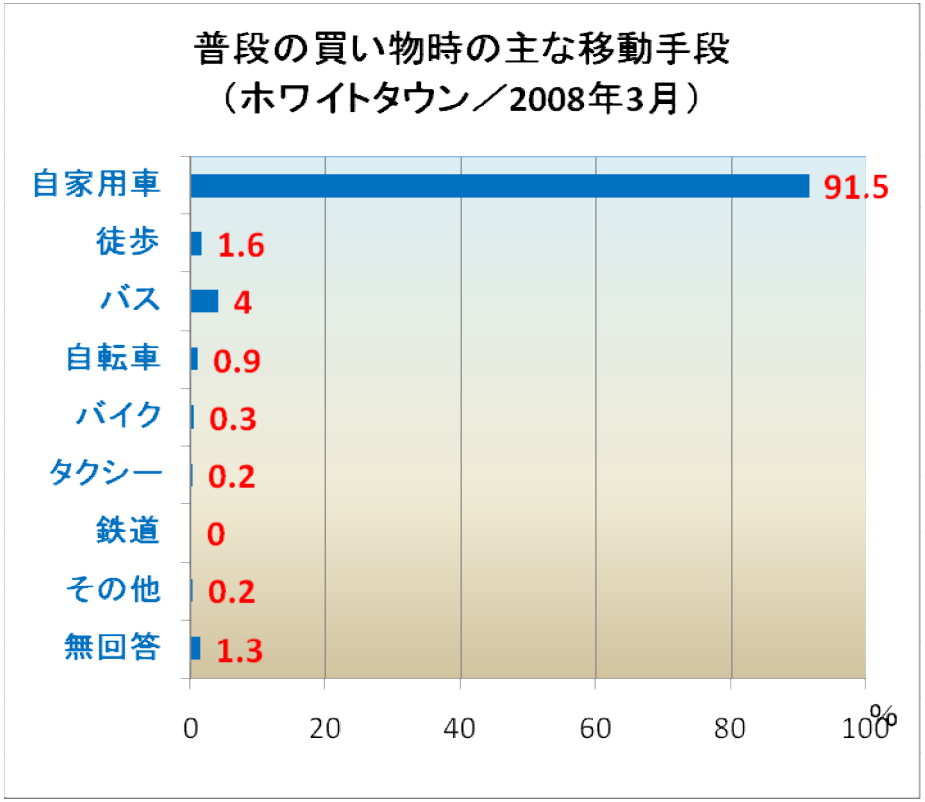
多治見市内の病院、診療所は多治見駅周辺等中心市街地に集中しており、郊外の住宅団地からのアクセスは車（自家用車、バス、タクシー等）に頼らざるを得ない。



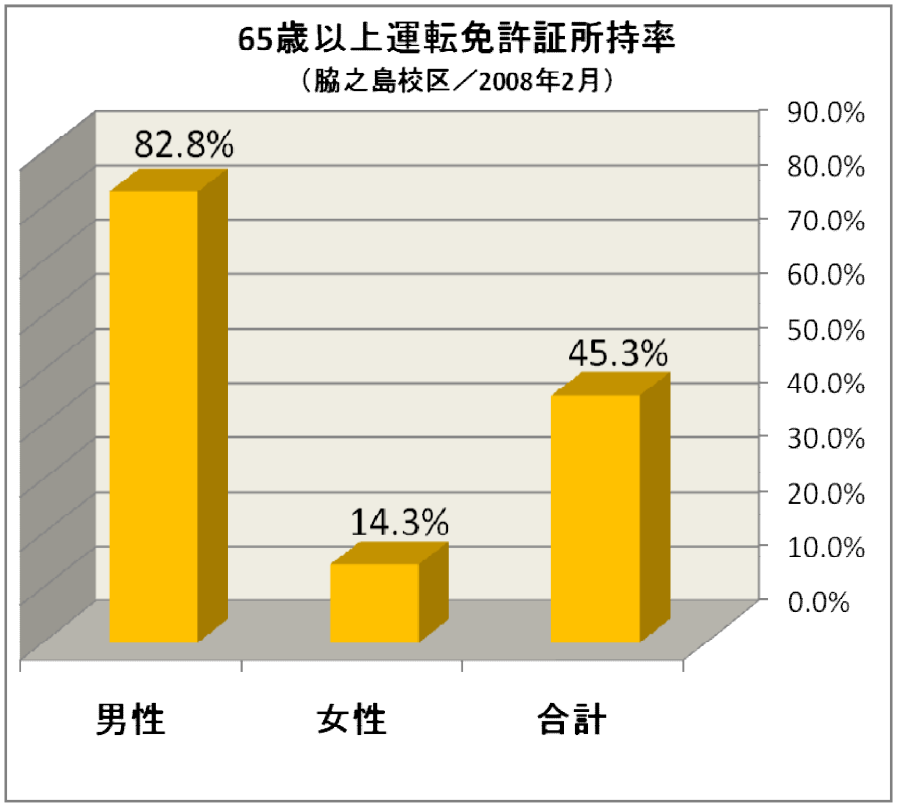

出典）県域統合型GIS・医療機関マップ

## 自家用車

ホワイトタウンはその立地条件（丘陵地を造成・市街地まで約3.5km）から、自家用車の利用が必須で、普段の買い物は9割以上の人が自家用車で移動している。
そのため、65歳以上の男性は8割以上が運転免許証を所持している。
しかし一方で、**65歳以上の女性は約14%しか運転免許証を所持していないため、将来、買い物時の移動手段を持たない人が急増するおそれが有る。**



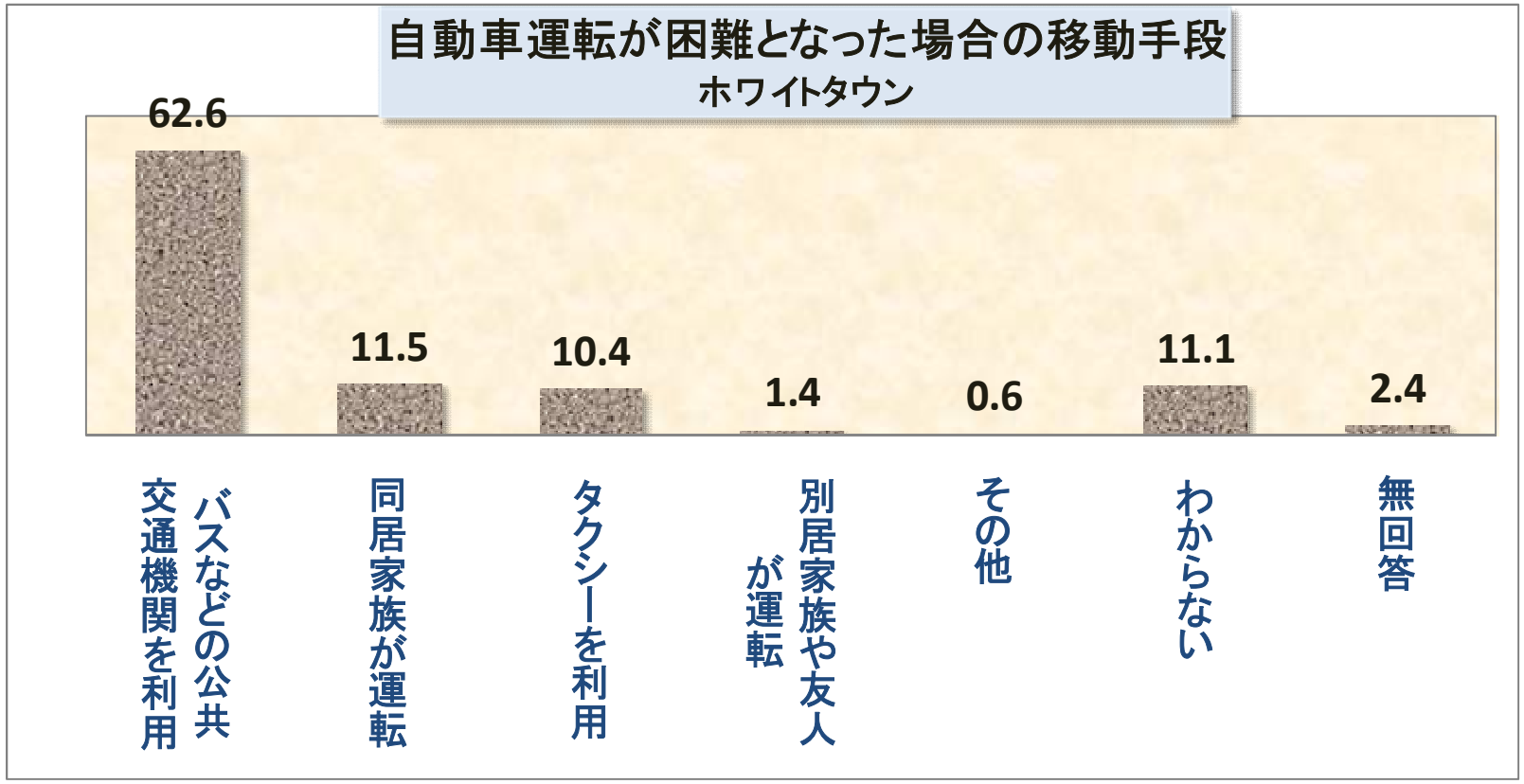

国土交通省「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）




多治見警察署のDataと多治見市のDataにより作成（2008.2.14）

## 自家用車

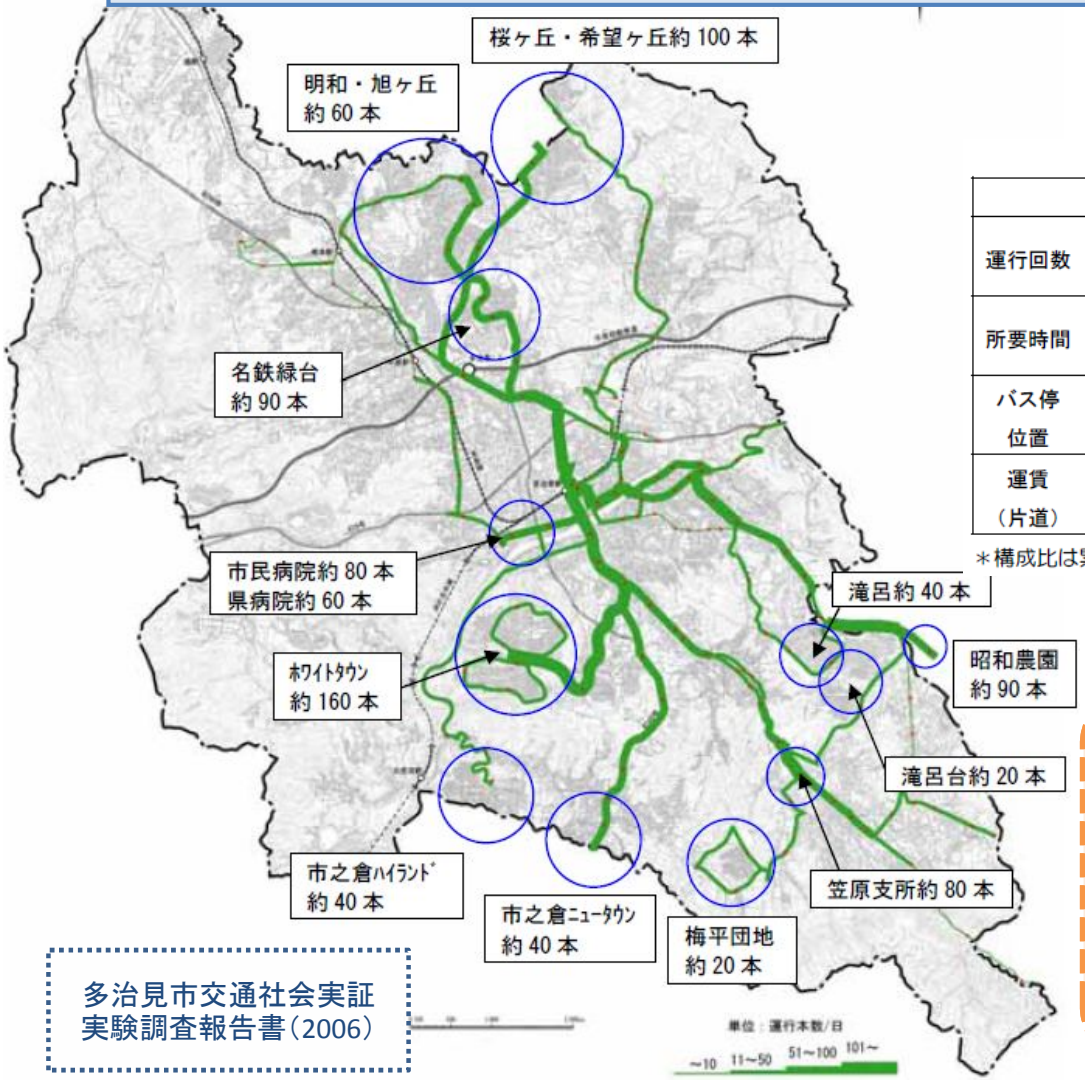
自分が自動車運転困難となった場合の代替手段として、約6割の人が公共交通機関を想定している（国土交通省「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書）が、1割以上の人は「わからない」と答えている。




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931

## 路線バス

路線バスの運行本数は団地によって大きなバラつきがあるが、ホワイトタウンは住民がバス会社にバスを寄付していることもあって、市内で最も利便性が高い。
現在利用していない人（92%）のうち14%の人が「条件が満たされればバスを利用しても良い」と回答しており、その半数以上の人が条件として挙げているのは　①30分に1本運行、②所要時間が現在と同じくらい、③片道運賃が200円以内




多治見市交通社会実証実験調査報告書（2006）

**多治見市のバス交通に関するアンケート調査（2002年8月）**

■バス利用転換に最低限必要な条件

| | | バス利用転換に最低限必要な条件 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 運行回数 | 転換条件 | 1 時間に 1 本 | 30 分に 1 本 | 20 分に 1 本 | 15 分に 1 本 |
| | 転換率 | 約 22% | 約 58% | 約 76% | 約 100% |
| 所要時間 | 転換条件 | 現在より遅くても良い | 現在と同じくらい | 現在よりも短い | ― |
| | 転換率 | 約 8% | 約 84% | 約 100% | ― |
| バス停位置 | 転換条件 | 多少歩いても良い | なるべき近いところ | ― | ― |
| | 転換率 | 約 13% | 約 100% | ― | ― |
| 運賃（片道） | 転換条件 | 300 円以内 | 200 円以内 | 100 円以内 | 無料 |
| | 転換率 | 約 10% | 約 49% | 約 88% | 約 100% |

＊構成比は累計

配布：多治見市民2,000 名、回収：580 票（回収率29%）、配布、回収とも郵送方式

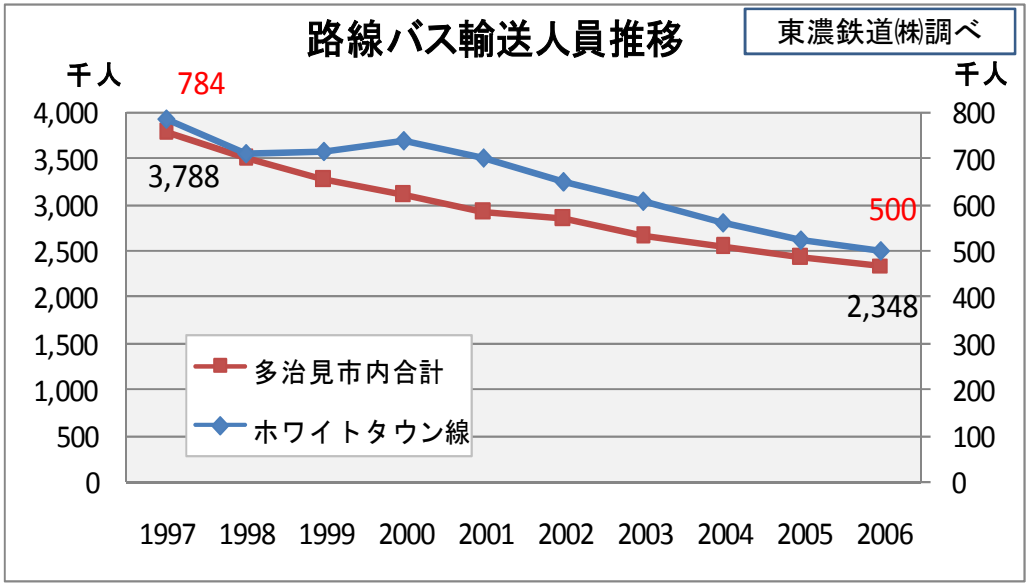
- 平日の日常的な移動においてバス以外の交通手段を利用している人がバス利用へ転換（条件が満たされた場合）しても良いと回答した割合は約14%となっている。
- これらバス利用への転換が可能な14%の利用者のバス利用転換に最低限必要な条件は、運行回数では、30 分に1本あれば約6 割、20 分に1本あれば約8 割がバス利用へ転換すると回答されている。
- 運賃（片道）では、200 円以内であれば約5 割、100 円以内であれば約9 割がバス利用へ転換すると回答している。

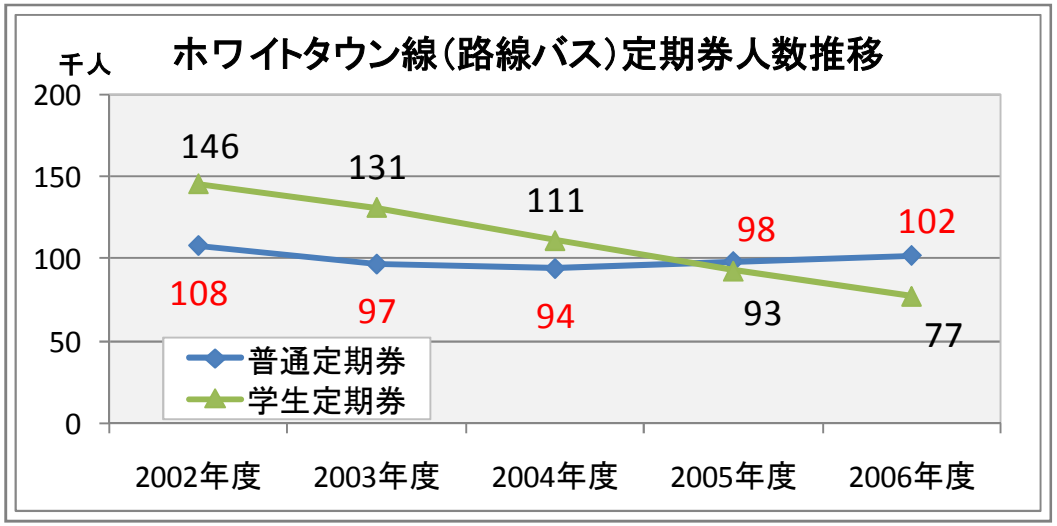
## 路線バス

**ホワイトタウン線の乗客は直近の9年間で3分の2以下（36%減）になり、多治見市全体でも路線バスの乗客は9年間で38%減小している。なお、学生定期券は直近4年間で半分に急減しているが、普通定期券（主に通勤者）人数は減っていない。しかし、団塊の世代がリタイアすると普通定期券利用者が急減する可能性がある。**

ホワイトタウン路線バス本数（東濃鉄道）

| | ホワイトタウン発<br>多治見駅行 | 多治見駅発<br>ホワイトタウン行 |
|---|---|---|
| 6時台 | 8 | 2 |
| 7時台 | 10 | 2 |
| 8時台 | 5 | 4 |
| 9時台 | 3 | 3 |
| 10時台 | 3 | 3 |
| 11時台 | 3 | 3 |
| 12時台 | 3 | 3 |
| 13時台 | 3 | 3 |
| 14時台 | 3 | 3 |
| 15時台 | 3 | 3 |
| 16時台 | 3 | 3 |
| 17時台 | 5 | 6 |
| 18時台 | 6 | 6 |
| 19時台 | 6 | 6 |
| 20時台 | 6 | 5 |
| 21時台 | 4 | 5 |
| 22時台 | 4 | 3 |
| 23時台 | 2 | 2 |
| TOTAL | 80 | 65 |

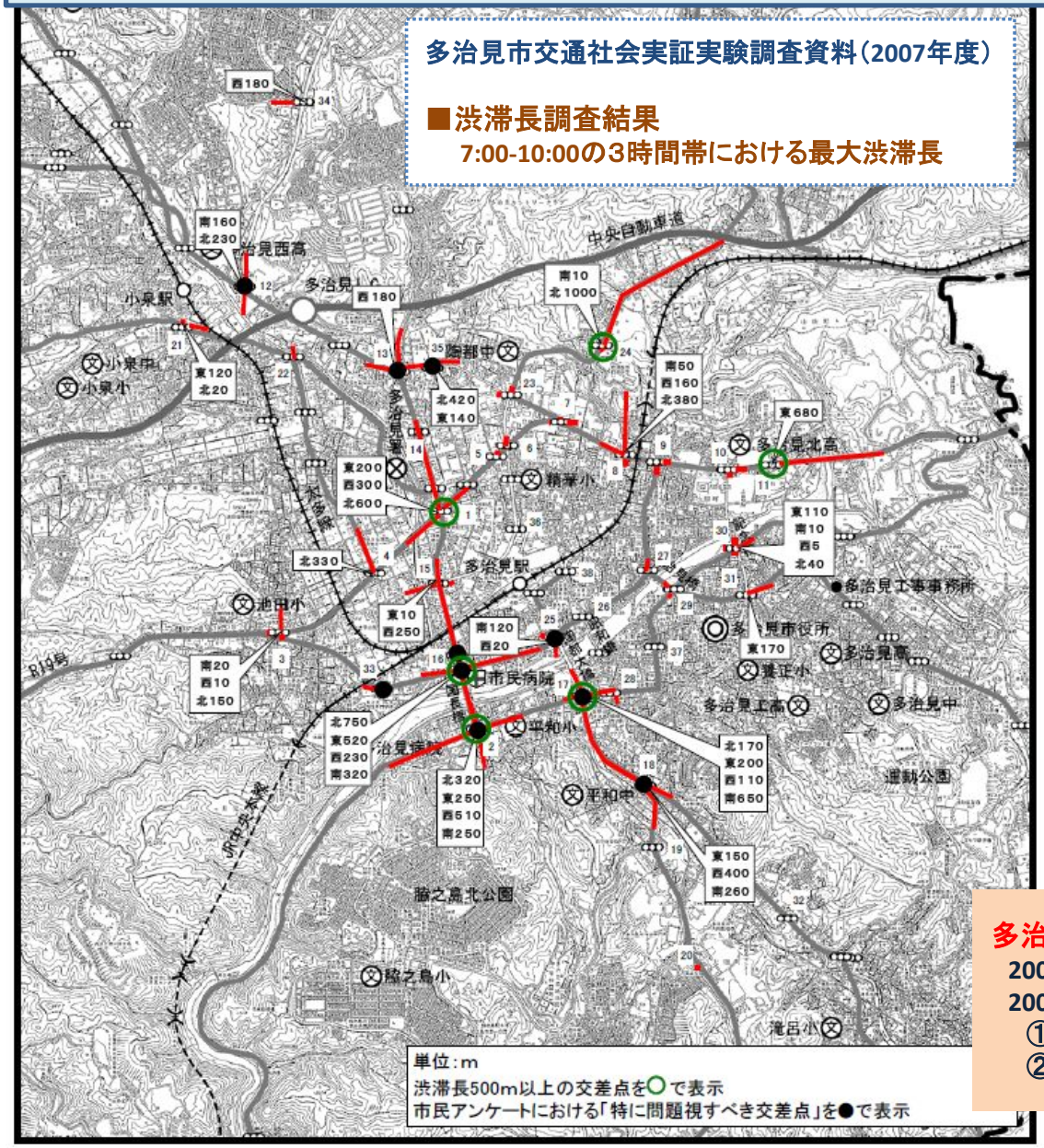



**ホワイトタウンは、他の地域に比べてバスの利便性が高いが、それでも利用者減少に伴い、運行本数が減ってきている。**

## 交通渋滞

**路線バスの利用者が減る一方で、多治見市内の主要道路は恒常的に交通渋滞しており、特に朝夕、郊外から中心部へ向かう道路は激しく渋滞している。**




### 多治見市広報（2007.9.1）

**多治見市の交通渋滞への取り組み**

2005～2006年度　交通社会実証実験調査

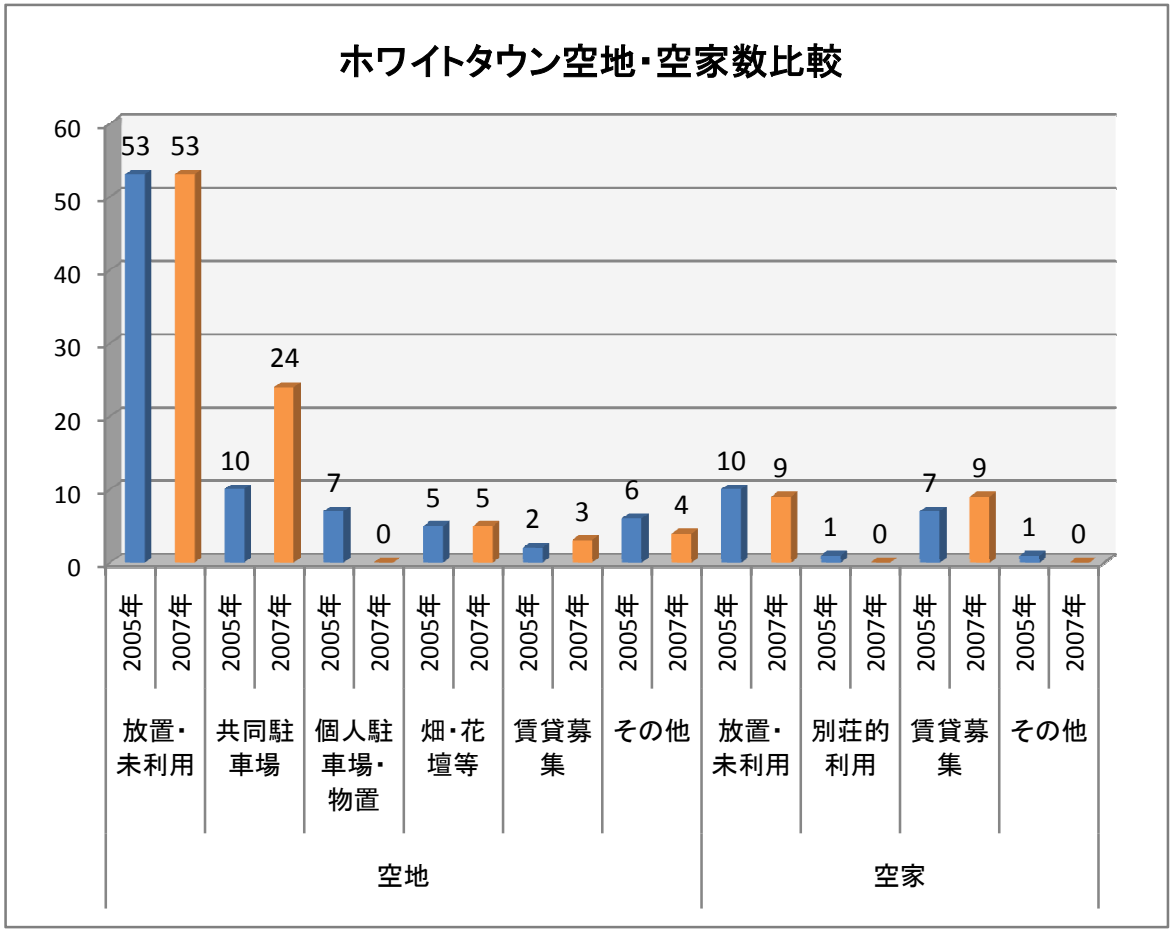
2007.11.26-30　交通社会実験実施（エコ交通推進ウィーク）

①パーク＆ライド（北部団地→SC（乗換）→駅）

②バス運行改善（駅止まりのバスを高校まで延伸）

## 空地・空家

**ホワイトタウン内の空地、空家はそれほど増えていない。（2005年-2007年比較）**
**ただし、共同駐車場として利用している空地はこの2年間で2.4倍に増えている。**



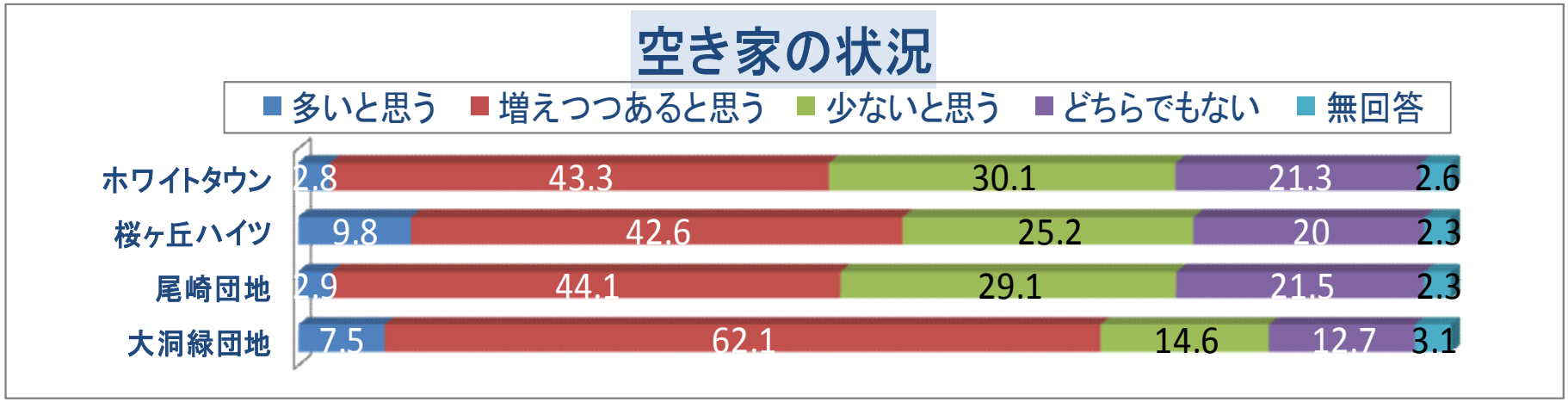
共同駐車場として利用される空地

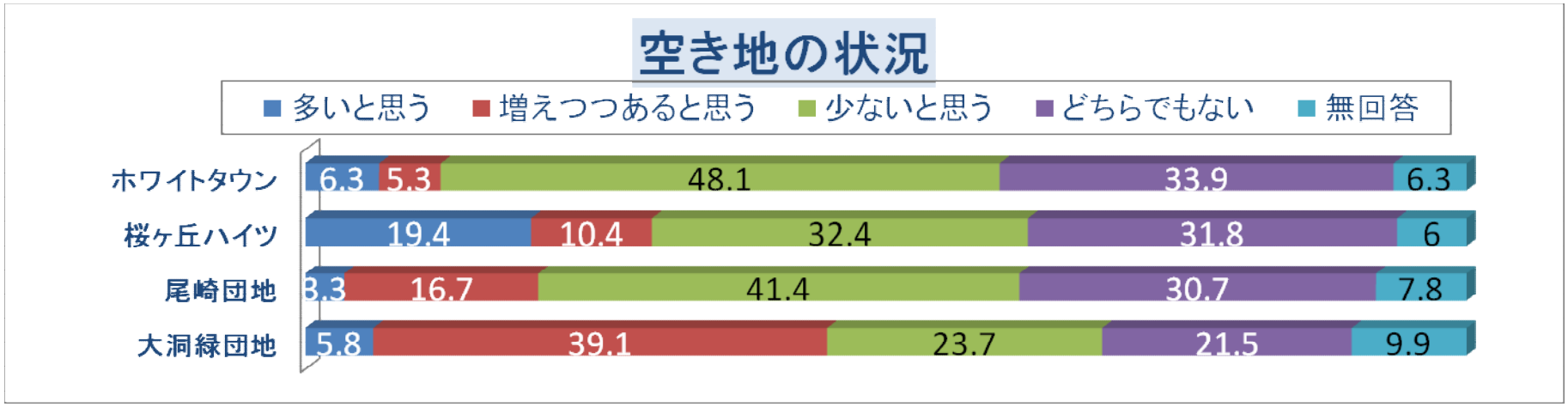
未利用地

2005年調査は「第5回多治見市持続可能な地域社会づくり政策研究会」にて委員報告
2007年調査は多治見市都市政策課にて実施

## 空地・空家

**ホワイトタウン住民の実感**（「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書2008年3月）として、空き家・空き地ともに「多い」とは感じていないが、空き家については4割以上の人が「増えつつある」と思っている。




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931、大洞緑団地（1150→992、尾崎団地1100→818、桜ヶ丘1000→469

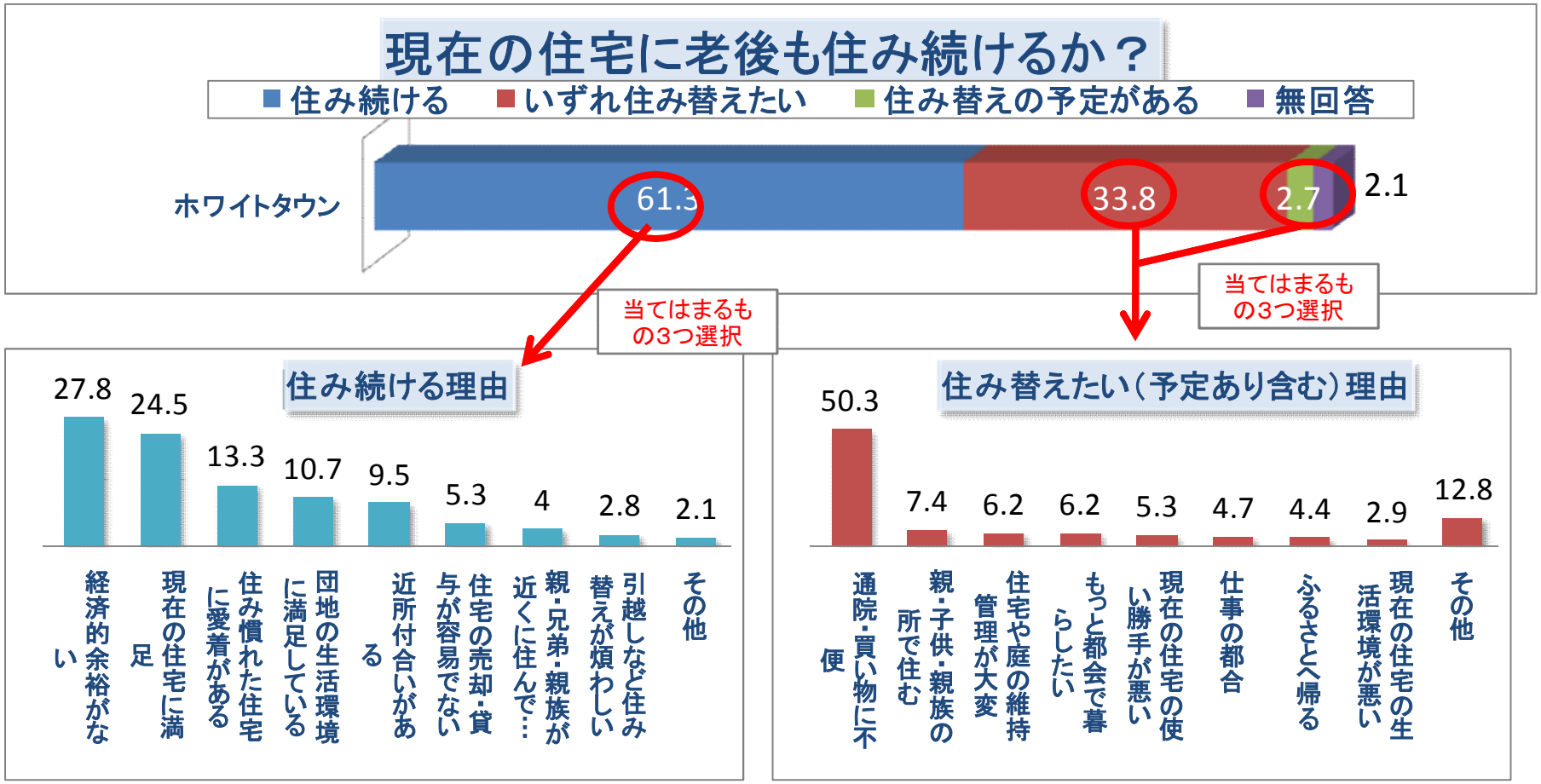
空地・空家

## 関係者インタビュー（市内不動産会社店長）

・ホワイトタウンに住んでいる人は元々、名古屋に住んでいた人が多いので、この土地に対する執着がなく、他の団地に比べて手軽に自宅を売却するように感じる。
・ホワイトタウンに住んでいる人は転勤族が多いので、転勤に伴って自宅を売却される人も多い。
・ホワイトタウンはそれなりの物件が出れば市内の団地では一番よく売れる。
・（ホワイトタウンの）中古住宅になれば1千万円台までで買えるので若い人でも購入しやすい。
・若い人にとってはホワイトタウンは皆、よそから来た人ということで近所付き合いの心配が他の場所に比べて少ない。
・5年くらい前までは春日井や名古屋からの転入が多かったが、最近は愛知県の人は減ってきている。
・ホワイトタウンは市内の他の団地に比べて愛知県でも知名度が高い。
・ホワイトタウンについては、毎年6～7件の物件を取り扱っている。（コンスタントに物件が出るところ）
・国道248号線の渋滞がネックでホワイトタウンへの転入を断念したケースもある。

## 老後も住み続けるか？

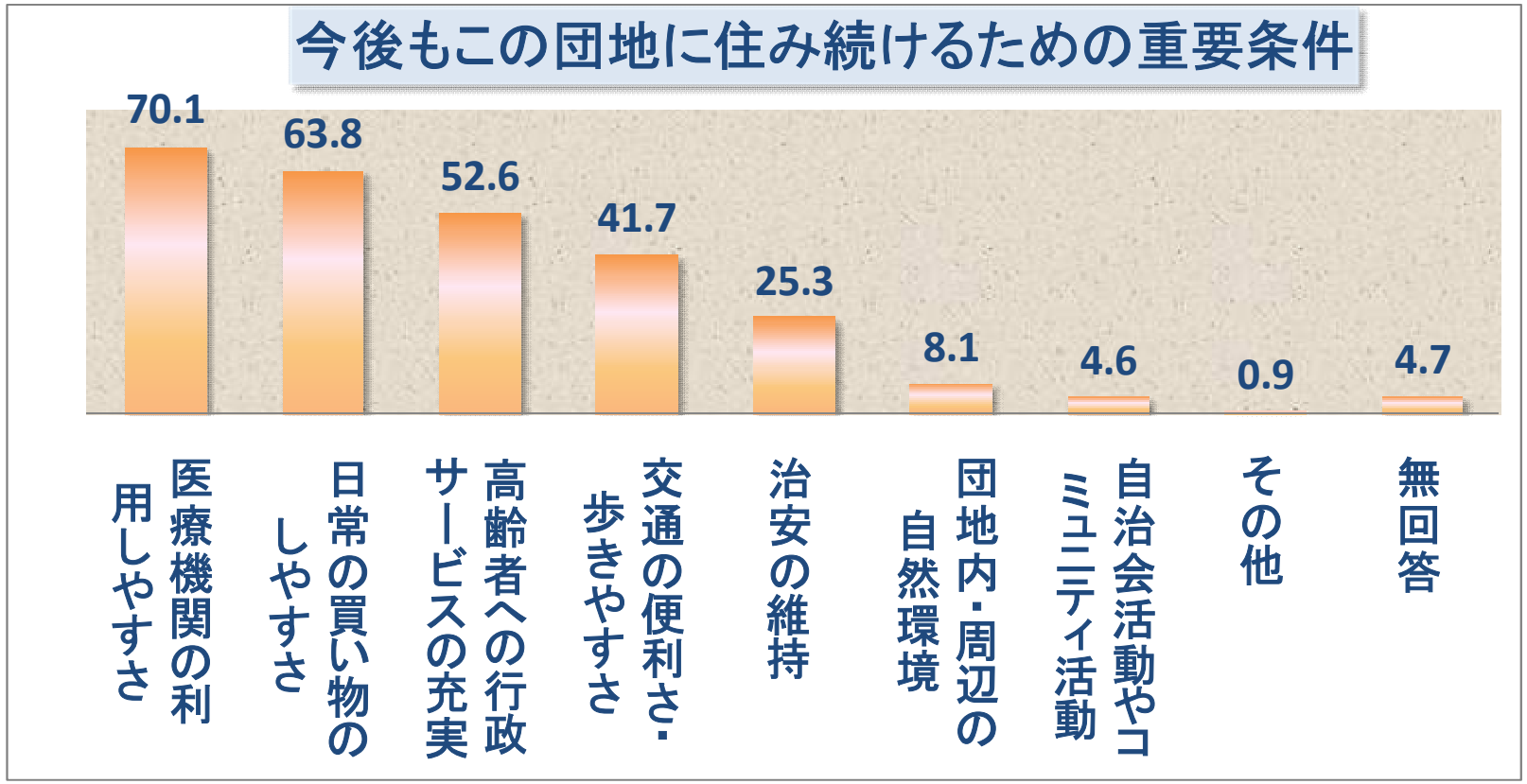
2008年3月の国交省の調査（「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書）では、**約60%が老後も住み続けると答えているが、最大の理由は「経済的余裕がないから」**。ただし、「満足している」「愛着がある」「近所付合いがある」等の現在の住宅を肯定する人も60%弱おられる。**住み替えたい理由は半数が「不便だから」**




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931

## 老後も住み続けるか？

ホワイトタウン住民が今後も住み続けるための条件として重要視しているのは、
①医療機関の利用しやすさ ②日常の買い物のしやすさ ③高齢者への行政サービスの充実 ④交通の便利さ ⑤治安の維持




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931 最大3つまで選択

## 老後も住み続けるか？

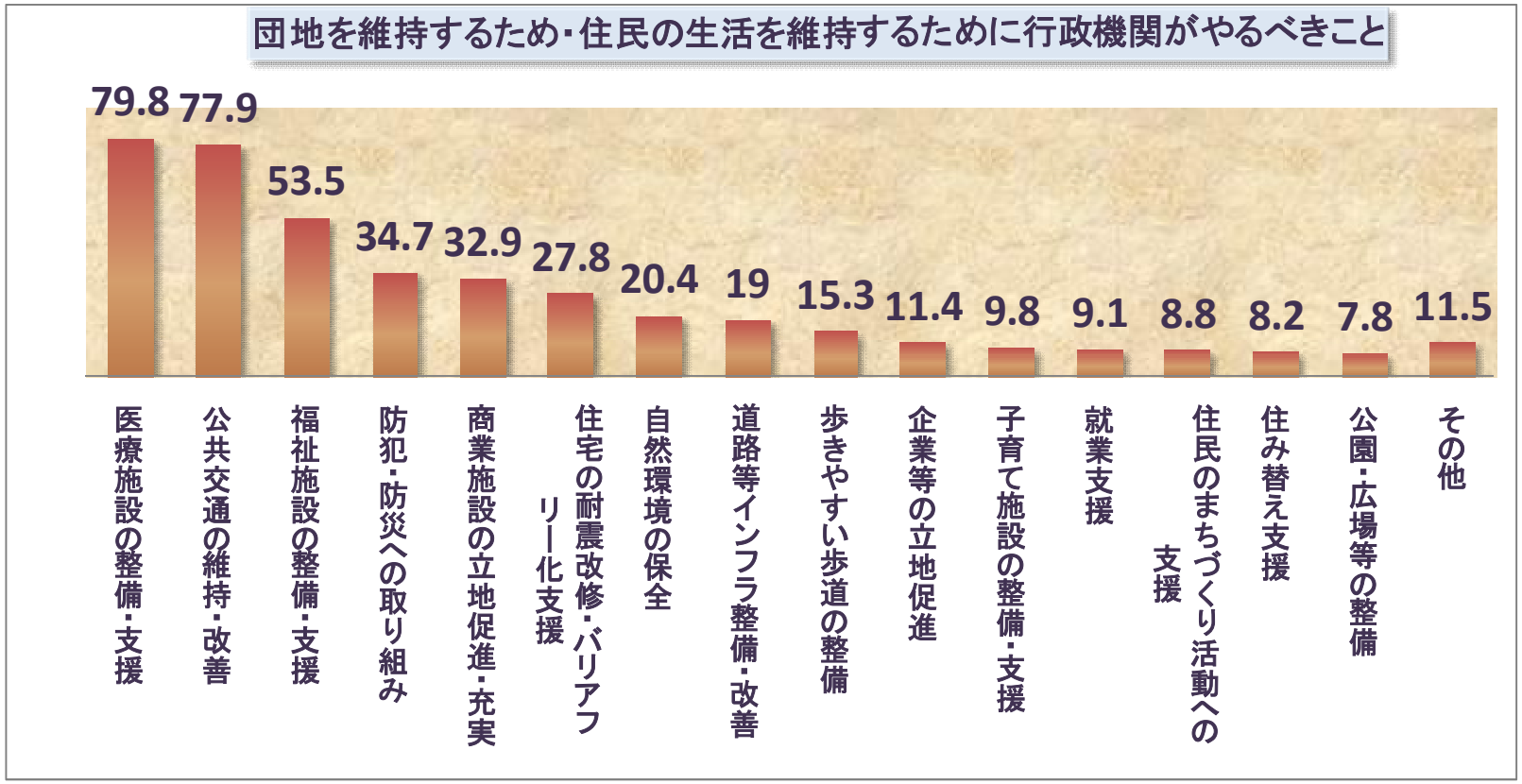
**ホワイトタウン住民の6割近くは、子どもとの同居は将来もないと答えている。**
**将来、同居もしくは近居すると思っているのは約2割。**

### 将来、子どもは戻ってくるか？

出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931

## 老後も住み続けるか？

ホワイトタウン住民が今後も団地を維持するため、生活を維持するために、県や市などの行政機関がやるべきこととして、8割近い人が①医療施設の整備　②公共交通の維持改善を挙げ、以下、③福祉施設の整備　④防犯防災　⑤商業施設の立地促進　⑥住宅の耐震改修・バリアフリー化　の順で求めている。




出典）国土交通省：「都市近郊における大規模住宅団地の利活用方策」報告書（2008年3月）
配布・回収数：ホワイトタウン1000→931　最大5つまで選択

# まとめⅡ　その①

- 多治見市の住宅団地の高齢化率はまだ低いが、今後断続的に急激な高齢化に直面すると予想される。
- 市内最大のホワイトタウンでは既に急激な少子化が進行しているが、人口の偏りと第二世代の流出により、今後急激に高齢化が進むことが予想される。
- 現在のホワイトタウンは緑が多く、治安の良い、子育てに最適な環境であるが、子育て世代は減りつつある。
- 一方で通院や買い物に不便で、バリアフリー化されていないホワイトタウンは高齢者に住みにくい街になりつつある。（住民と団地のミスマッチが生じつつある。）
- 今後、災害時の要援護者支援や消防団の高齢化対策等を考えると、若い世代を団地内に呼び込むことが急務となる。

# まとめⅡ　その②

- ホワイトタウンは立地条件から、通院や買い物への移動手段に現在9割以上が自家用車を使っており、路線バスは年々利用者が減少している。しかし、運転免許証を持たない高齢女性が多く、将来移動手段を持たない人が急増することが危惧される。
- ホワイトタウンから市街地へ向かう道路は朝夕、渋滞が激しく、名古屋への高速バスもそれがネックで運行されない。
- ホワイトタウンでは空き地・空き家はそれほど多くないが、約4割の住民が、空き家は増えつつあると感じている。
- ホワイトタウン住民の6割は老後も住み続けると答えているが、3割強の住民はいずれ住み替えたいと考えており、その半分は通院・買い物に不便だからと答えている。
- ホワイトタウン住民の6割近くは子どもとの同居は将来もないと考えている。

# Ⅲ　行政と住民の取り組みについて

多治見市「持続可能な地域社会づくり」

ホワイトタウン「ふれあいセンターわきのしま」

# 多治見市「持続可能な地域社会づくりプロジェクト」

■多治見市では、少子高齢化の推移とそれに伴って変動する行政需要を予測し、想定される変化に対応した施策のあり方を検討するために、平成13～14年度（2001～2002）に「高齢化に伴う需要予測調査」を実施した。
その調査で、当時の予想を大きく上回る急激な少子高齢化と人口減少が見通されたため、急激な人口減少を避け、少子高齢化時代に対応していくための方策を検討することとし、平成15～18年度（2003～2006）にかけて人口減少、少子高齢化時代における「持続可能な地域社会づくり」に取り組んでいくための研究調査を実施した。

「多治見市高齢化に伴う需要予測調査」（H13～14）結果（2000年国勢調査を基に推計）

・将来人口は2010年をピークに減少し、2025年にはピーク時の95%程度（101,582人）に
・高齢化率は2011年に20%を突破し、2025年には27%に達する
・年少人口は減少を続け、2025年には2000年の70%程度まで減少
・福祉需要は増加を続け、居宅サービス対象者は2025年には2002年の約2.05倍に、
・施設サービスは約2.39倍になると推計

# 多治見市における「持続可能な地域社会づくり」に関する流れ

| | |
|---|---|
| 平成13年度　多治見市高齢化に伴う需要予測調査<br>将来人口と福祉需要の推計　類似自治体における高齢社会対策　住宅団地意識調査 | 2001 |
| 平成14年度　多治見市高齢化に伴う需要予測調査<br>研究会　住宅団地における住民参加型まちづくり | 2002 |
| 平成15年度　多治見市持続可能な地域社会づくりに伴う研究調査<br>研究会　将来人口の見直し　類似計画・事例の整理　住民意識の整理 | 2003 |
| 平成16年度　多治見市持続可能な地域社会づくりに伴う研究調査<br>研究会　地域内分権・住宅政策・少子化対策・しごとづくりに対する検討 | 2004 |
| 平成17年度　多治見市持続可能な地域社会づくりに伴う研究調査<br>研究会　施策展開の現状、合併に伴う変化、住宅ストック、人口容量に対する検討 | 2005 |
| 平成18年度　多治見市持続可能な地域社会づくりに伴う研究調査<br>研究会　持続可能な地域社会づくりに向けての施策展開、地区別の個別施策 | 2006 |

→ 多治見市新交通システムモデル事業（市之倉トライアングルバス）2007.4～

→ 多治見市多子世帯向け家賃補助制度モデル事業　2007.10～

# 多治見市新交通システムモデル事業（市之倉トライアングルバス）

■「持続可能な地域社会づくり政策研究会」（2003～2006年度）での検討を経て、市民が気軽に外出でき、安心して地域で生活し続けることができる社会を創出することを目的に2006年度に補助制度（多治見市が運営費の1/3を3年間補助）が制定され、モデル事業を公募した。
応募した事業者の事業計画を地域公共交通会議で協議・承認し、2007年4月より運行を開始

**事業内容**

市之倉地区（多治見市の南端・住宅団地が点在）と中心市街地とを結ぶ区域運行
会員予約のデマンド型乗合輸送（15人乗り車両）
運行費は旅客運賃と市補助金とスポンサー広告料（車体広告）とで賄う

**特　徴**

①事前登録・完全予約制
②停留所はなく、区域内乗降自由
③事前登録した場所への送迎可能（玄関先まで送迎OK）
④誰とでも使い回せる無記名定期券（1ヶ月1万円）
⑤平日のみの運行
⑥時刻表はなく、指定地域（市之倉地区）からの出発時間は決まっている

多治見市新交通システムモデル事業……市民・行政・企業の支えあう、バスでもタクシーでもない新しい公共交通機関

# 市之倉トライアングルバスで出かけよう！

街まで出かける、町内を移動する等、どなた様でもお気軽にご利用下さい。

市之倉トライアングルバスは、多治見市の助成金と企業スポンサーの広告料、そしてご利用者の運賃で運行しています。

## 会員登録受付中!!

### ポイント1 事前登録・完全予約制です。

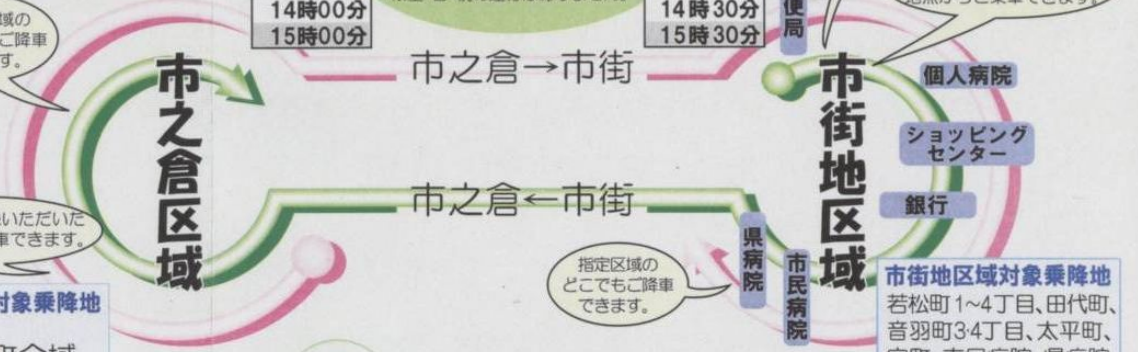
**ご利用には、必ず事前登録とご予約が必要です。**

ご利用の前に、ご自宅等のお迎え先や、よく行かれる場所をご登録いただくことにより、スムーズな運行を目指します。ご利用の前日までに登録を、また、ご予約はご利用の30分前までにお願いいたします。詳しくは裏面をご覧下さい。

### ポイント2 玄関先まで送迎OK。区域内乗降自由です。

**停留所はありません。ご自宅と目的地をドアtoドアで結びます。**

トライアングルバスには、停留所がありません。区域内ではタクシーの感覚でご利用ください。ご指定の場所までお迎えに上がります。ご自宅・集会所・病院・スーパーや郵便局等、乗降の安全を確保できる場所ならどこでもOK。もちろん、区域内相互のご利用も可能。市之倉町内のご移動、市街地区域内でのご移動も可能です。




### ポイント3 市之倉と市街地を結ぶ14人乗りの小型乗合バスです。

**「路線バスより便利に、タクシーより安く」を目指しました。**

「街へでかけるのなら、みんなで一緒に行ったほうが楽しいし、安く済むんじゃない？環境にもいいよね。」……そんな考えから生まれたのが「市之倉トライアングルバス」です。路線バスだとバス停まで遠い、タクシーだと高くて乗れない、そんな皆様を小さなバスで玄関先までお迎えし、乗り合わせて市街地へ行くバスです。乗り合わせだから、みんなのペースに合わせなきゃならないけど、安くて楽しいバスです！

### ポイント4 誰とでも使い回せる無記名定期券をお求めください！

**月極め定期券は、ご家族、ご夫婦、ご友人等、相互に使えて乗り放題。**

1ヶ月単位の月極め定期券は無記名式で断然おトク。つまり、定期券に名前が入っていないので、定期券を持っていれば誰でもご利用可能！(注:1枚の定期券で1度に複数名様はご乗車できません)もちろん、1回限りのご利用や回数券もご用意していますが、乗り放題の定期券で、どんどん町へ出かけてください。

定期券がおトクです。

| 運賃の種類 | ご利用区間 | 金額(税込) |
|---|---|---|
| 1ヶ月無記名定期券 | 毎月1日~末日までの月極めで乗り放題 | 10,000円 |
| 11枚つづり回数券 | 市之倉区域⇔市街地区域 | 8,000円 |
| 片道1回ご利用運賃 | 区域内間でのご利用 | 400円 |
| | 市之倉区域⇔市街地区域 | 800円 |

※いずれも車内にて現金でお支払ください。
※1ヶ月無記名定期券の期間は、毎月1日から末日までです。
月中でお買い求め頂く場合も同じ金額となります。


移動・生活サポーター。
株式会社コミュニティタクシー
〒507-0074 岐阜県多治見市大原町5-99-3
TEL:0572-20-1717 FAX:0572-29-4888
URL：http://www.comitaku.com


ご相談・お問合せはお気軽にどうぞ！ フリーダイヤル 0120-89-5539（ハヤク ゴーゴーサンキュー！）

# 市之倉トライアングルバスご利用の流れ

ご予約はカンタンです！ご不明な点がございましたらお気軽にお電話ください！

## 1 まずは会員登録

市之倉トライアングルバスは会員制です。下の応募用紙に必要事項を記入してFAX送信してください。登録は無料。

FAX:0572-29-4888

登録はご利用の前日までにお済ませください。

登録完了通知

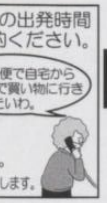
## 2 ご予約

ご利用したいバスの出発時間の30分前にご予約ください。

・お名前
・便名
・ご乗車場所
・ご降車場所

をお伝えください。

※お早目のご予約をお勧めいたします。




## 3 ご乗車

指定した場所にお迎えにあがります。ご乗車時に料金を頂きます。

## 4 ご降車

指定場所でご降車できます。

## 5 お買い物

## 6 お帰り

行きと同じように電話にてご予約ください。ご指定の場所までお迎えに上がります。

※お早目のご予約をお勧めいたします。

## 注意事項

**①完全事前登録予約制です。**
ご登録は乗車日の前日までに、ご予約は便出発の30分前までにお済ませください。

**②平日のみの運行です。**
土・日・祝はお休みさせていただきます。

**③時刻表はありません。出発時間は「目安」です。**
便ごとにご予約の状況でご乗車人数が変わりますので、お迎え時間に5分～10分の誤差が出ます。お時間どおりにお迎えに上がれない場合がございますのでご了承ください。

**④乗車定員になり次第、締め切ります。**
バスには立席がありません。先着順にて乗車定員になり次第、締め切りますので、お早目のご予約をお願いいたします。

**⑤区域外では乗降できません。**
市之倉町内と市街地の指定区域(前畑町、田代町、太平町、宝町、音羽町3・4丁目、若松町1～4丁目)以外での場所で乗り降りはできません。

**⑥多治見駅、古虎渓駅にはいきません。**
JR多治見駅・古虎渓駅には行きません。市之倉町内のバス停までお送りいたしますので、路線バスへのお乗換えや、タクシー等のご利用をお願いいたします。

## 県病院前に待合サロンを設置

市之倉トライアングルバスは、単に移動手段だけではなく、地域のコミュニティの活性化を目指しています。同じ町の者同士がワイワイ、ガヤガヤ街に出かけ、みんなが元気になって行く・・・そんなことを願っています。市街地区域の県病院前に、バスの待合所機能を持たせただコミュニティスペース」を開きます。(4月開設予定)
ここには便利屋事業部常駐員がいますので生活相談もできます。どうぞお気軽にご利用下さい。

## 市之倉トライアングルバスはご利用の皆さんのご意見で運行内容を変えて行きます。

市之倉トライアングルバスのシステムは、全国的にも珍しく、事例がほとんどありません。従って、運行するコミタクも初めての挑戦で、正直、不安もいっぱいです。より便利により安く、ご利用される方にとって本当に良いものを、皆さんといっしょに創り出したいと願っています。運行開始後「こうして欲しい、ああすればいい」という意見をどんどん取り入れ、変えて行きたいと思っています。主役は事業者ではありません、ご利用される皆さんです。どうか、ご支援とご協力をお願いいたします。

キリトリ

## 市之倉トライアングルバス会員登録申込用紙

受付後、登録完了のお知らせを致します。登録完了には1～2日かかる場合がございます。予めご了承ください。お急ぎの場合はお電話にて受付いたします。

移動・生活サポーター 株式会社コミュニティタクシー
住所:多治見市大原町5-99-3 TEL:0572-20-1717

**点線をきりとり、太枠内に必要事項を記入してFAXにてお申込ください。**

会員番号：　　地図項：

| | | | |
|---|---|---|---|
| お名前 | （男・女） | 年　齢 | 才 |
| ご住所 | 多治見市市之倉町　　丁目　　番地 | | |
| 電話番号 | | FAX番号 | |
| 緊急連絡先 | （　　様宅） | 携帯電話 | |
| ご希望のお迎え場所 | 自宅　又は（　　） | | |
| よく行くところ | | | |

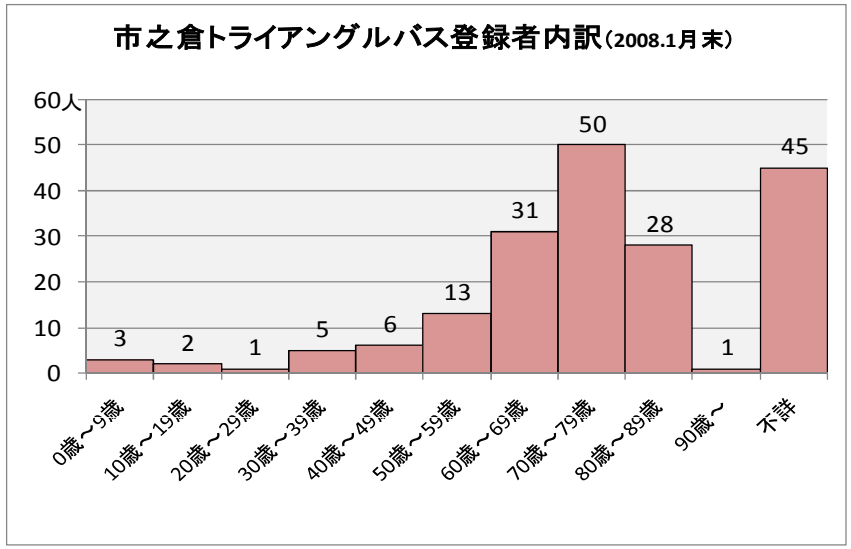
〈乗降に関してのご要望・連絡事項等があればご記入ください〉

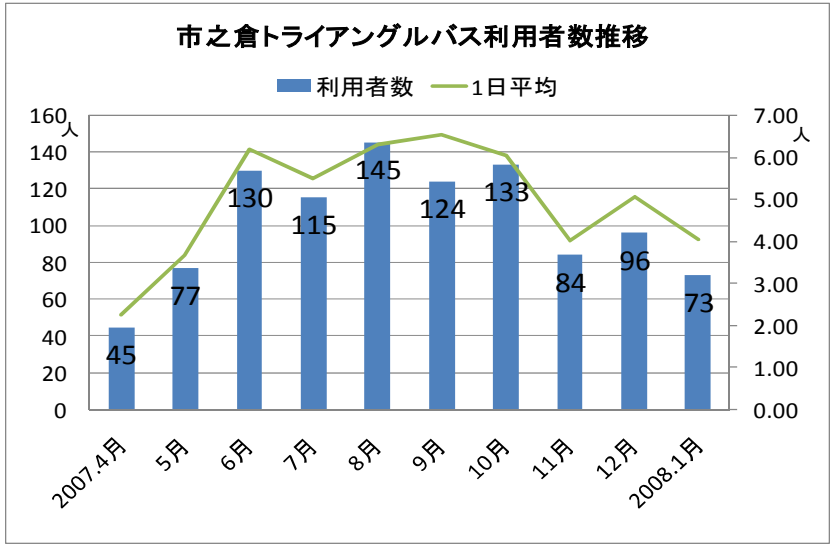
いただいた個人情報は、当社にて厳重に管理し、当社が提供するサービスに必要な範囲を超えて他の目的で使用することはありません。

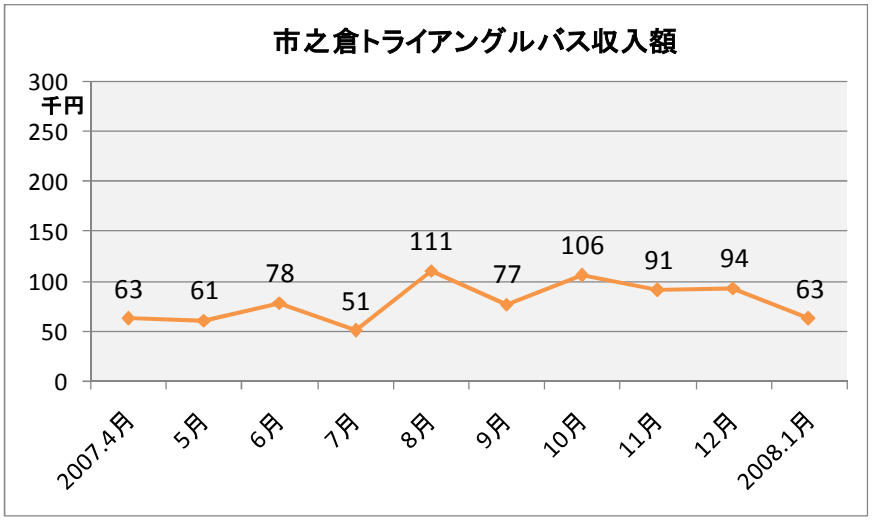
**FAX.0572-29-4888**

**お掛け間違いのないようご注意ください。**

市之倉トライアングルバスの利用者は60歳以上の方が多く、行き先は圧倒的に病院が多い。利用者が伸びないのは①市街地からの最終便が早い　②既存路線バスとの兼ね合いで駅や市役所へ行けない　③時間が合わない　④料金が高い　等の理由





# 多治見市新交通システムモデル事業（市之倉トライアングルバス）

## ■市之倉トライアングルバス利用者の声

・市街地発が14:45以降ないので不便（月に5～6回利用）
・仕事が終わっても帰りのバスがない（2回利用）
・帰りの便に時間がかかるので帰りはタクシーを利用する（週2回利用）
・不便だと思ったことはない（週3回利用）
・定期券を使ったので大変安く利用できた（20回利用）
・ドライバーとの会話が楽しみ（月2～3回利用）
・3人乗るとタクシーの方が安い（月2～3回利用）
・大畑町のバローに行けるとよい（週1回利用）

## ■市之倉トライアングルバス未利用者の声（利用しない理由）

・バスに比べて料金が高い
・いつも家族に乗せてもらっている（運転する人がいなくなったら頼まなければならない）
・今は車を運転できるから
・多治見駅や大畑町のバロー、市役所に行けないから
・市街地からの帰りの便が不便だから
・病院の診察時間（終わり）が分からないので帰り便の予約が難しい
・乗り合いがイヤ（一方で乗り合いが良いという意見もあり）
・内容（運行時間、乗り方等）が分かりにくい

アンケート調査（㈱コミュニティタクシー）

# 多治見市新交通システムモデル事業（市之倉トライアングルバス）

## 今後の課題

トライアングルバスが、将来急増する「車が使えない人」、「タクシーが使えない人」のための「あし」となり得るための存続可能な運営の実現

（現行の月あたり利用者数は採算ラインの半分以下）

①利用者数を増やすための利便性の向上（既存バス路線との共存を図りつつ）

（運行本数の増便、予約なしでも乗れる地点の設定、運行区域の見直し等）

②登録会員を増やすための事業PR（地域全体で支えるために）

（事業内容の周知徹底、地域住民の意識啓発）

③補助期間内（2009.3.31まで）に事業（収支）の安定化を図る

（広告枠の空きをなくす、町内会等への定期券の販促、新たな路線の追加等）

④他の交通機関との連携強化と役割分担

（路線バス、コミュニティバス、タクシー等との連携）

運営ノウハウを蓄積しつつ、利便性の向上を追求し、社会の変化にマッチした新交通システムの確立を目指した試行錯誤が続いている

## 関係者インタビュー（トライアングルバス運営事業者）

・このバスは単に移動手段というだけでなく、地域のコミュニティの活性化を目指している。同じ町の者がワイワイ、ガヤガヤ街に出かけ、みんなが元気になっていくことを願って運行している。
・市之倉地区は市街地まで遠い上に既存路線バスのバス停が地区の中央部にあるため、バスに乗るためにはバス停までかなり歩かなければならない方が多くおられる。買い物をした帰りなどは荷物を抱えて坂道を登ることになり大変である。
・既存バス路線と競合しないように乗降区域を設定しているので、市之倉の方がよく利用される病院の近くでは降ろせないため、この病院へ行く場合はかなりの距離を歩かねばならないことになってしまっている。また、市之倉から一番近いバローでは降りられず、遠くのバローに行くことになったりしている。
・運転手との会話が楽しみという声や玄関まで迎えに来てもらえるので大きな買い物をしても大丈夫という声がある。
（ドライバーが荷物を運ぶのを手伝うこともある）
・乗合ならではの不便さもあるが、そういうところを煩わしいと思う人はタクシーを利用する。タクシーを使えない人のために選択肢を残しておくことが必要。
・市之倉での運行が決まってから運行を開始するまでは、いつから運行するのかと待望する声が大きかったが、いざ運行してみると思ったほど利用者が伸びずに戸惑っている。

# 多治見市多子世帯向け家賃補助制度モデル事業

■「持続可能な地域社会づくり政策研究会」（2003～2006年度）での検討を経て、住宅団地の世代の多様化、活性化を図るとともに、空き家となっている戸建住宅を有効活用し、良好な子育て環境を整えるために補助制度を創設し、2007年10月より募集を開始した。

**事業内容**

同居する18歳未満のこどもが3人以上いる世帯（多子世帯）が多治見市内の1戸建て賃貸住宅に入居する場合に家賃補助を行う

**条　件**

①平成19年度、対象となる住宅はホワイトタウン3戸、明和団地2戸を想定
②申込時点で市町村税及び諸納付金を滞納していないこと
③生活保護、公的制度による家賃補助を受けていないこと

**補助内容**

①補助月額20,000円以内（実質家賃が下回った場合はその額）
②3年間（36ヶ月）を限度
③準備金100,000円（引越し経費として入居時1回のみ支給）

2007年度は応募者なし
　周知不足・募集時期が中途・自分で物件を探さなければならない　等々の理由を想定
2008年度も継続実施→市広報紙等によりPRを強化するとともにニーズ把握に努めている

# ホワイトタウン住民の取り組み（ふれあいセンターわきのしま）

## 「ふれあいセンターわきのしま」設立経緯

・全国的に少子高齢化が進む中、ホワイトタウンにおいても、もっと住みやすい街にしようと自治会が活動していく中で、「近い将来、住民の高齢化・若年層流出・出生率低下・生産人口減少等により、地域生活や活力ある地域活動の維持が困難になるのではないか」との懸念が生まれてきた。

・そこで、団地造成から20年以上が経過した2003年（H13）2月に、住民の中から委員を選出して、「まちづくりふれあいセンター準備会」を組織し、全ての団地住民が安心して暮らせる「まち」を目指して、団地住民が「さりげなく互いに支え合う」仕組みを構築するために、1年以上の時間を費やして、議論・検討した後、「ふれあいセンターわきのしま」を立ち上げ、2004年6月より活動を始めた。

### 当初のテーマ（検討事項）

①新興住宅団地特有の問題解決（起伏が多い・商店街が中心部のみ等、生活基盤が不十分で高齢者が団地内で生活を完結できない）

②少子高齢社会到来に合わせた住民ニーズの事業化（住民の世代の幅が狭く一気に高齢化が進行する過程で福祉サービスに対するニーズも急騰）

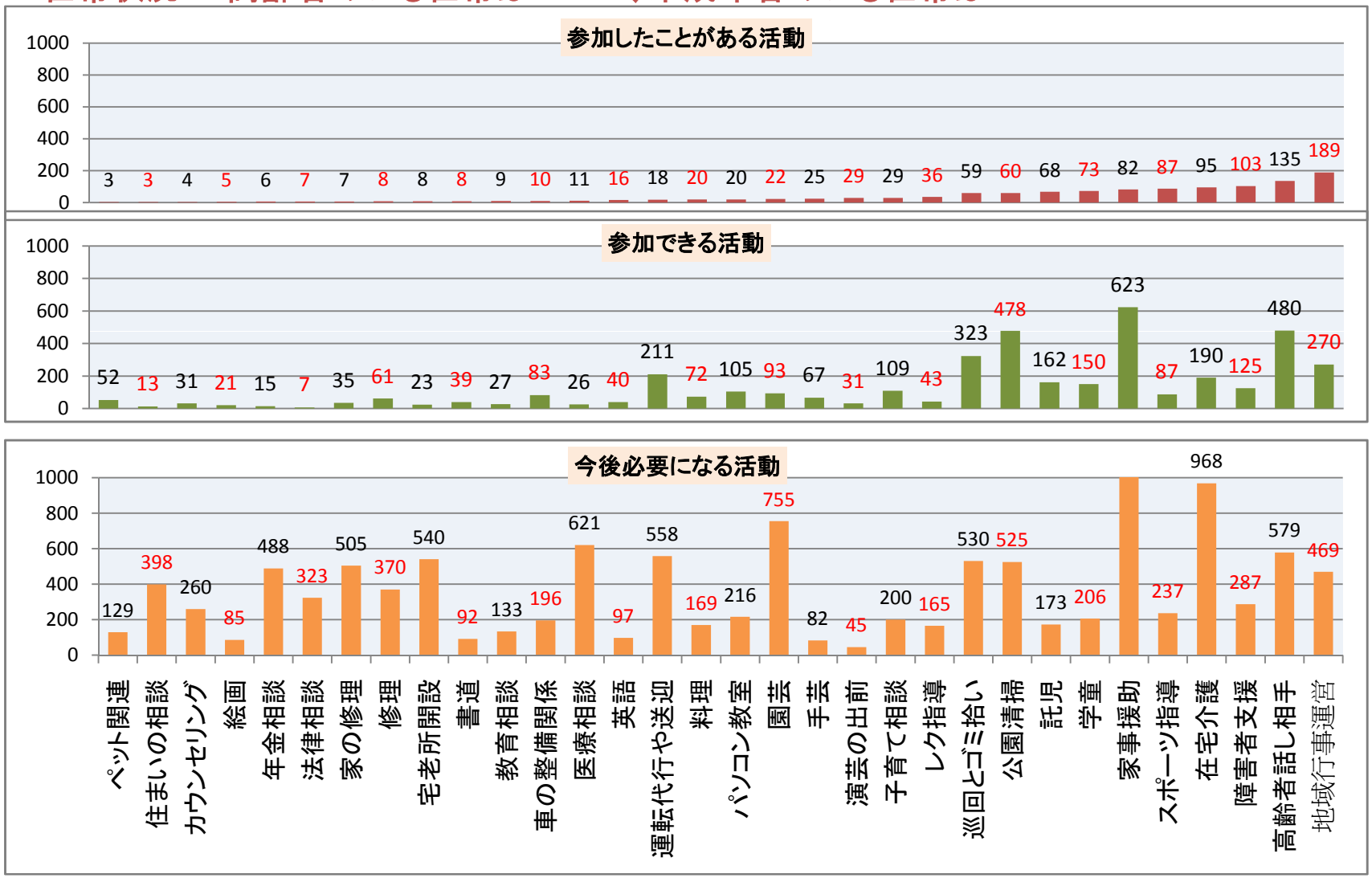
③高齢者の生きがいや働きがいの事業化（多くが専門知識を有し、まだ働ける状況で定年を迎える団地の多様な人材の活用）

団地内のバリア（起伏）

# ホワイトタウン住民の取り組み（ふれあいセンターわきのしま）

■ニーズ調査（2003年9月全世帯対象のアンケート実施（回答率97%））

世帯状況･･･高齢者のいる世帯は20.3%、未成年者のいる世帯は45.7%



# ホワイトタウン住民の取り組み（ふれあいセンターわきのしま）

■ニーズ調査（2003年9月全世帯対象のアンケート実施（回答率97%））

世帯状況･･･高齢者のいる世帯は20.3%、未成年者のいる世帯は45.7%

・ホワイトタウンでは、「地域行事の運営協力」、「高齢者の話し相手」、「障害者支援」等、既に多くの人がボランティア活動に取り組んでいる。
・住民が「参加できる活動」は「参加したことがある活動」よりも多く、ホワイトタウンにはボランティア意識が高い多くの潜在的な人材がいる。（家事援助・話し相手・公園清掃、巡回とゴミ拾い等）
・住民が「必要と考えている活動」は「参加できる活動」を上回っており、スタッフの確保や育成が必要（家事援助・在宅介護、園芸、医療相談、運転代行や送迎等）

**第1ステップ（自発的な取り組みの普及と啓発）**
・相談情報提供事業（総合的な相談窓口設置）
・高齢者支援活動（相談窓口設置、宅老所開設、家事援助、移送サービス等）
・シルバー人材事業（有償サービス事業）
・子育て支援事業（ホワイトタウンこども塾）
・スタッフ養成、スタッフ登録

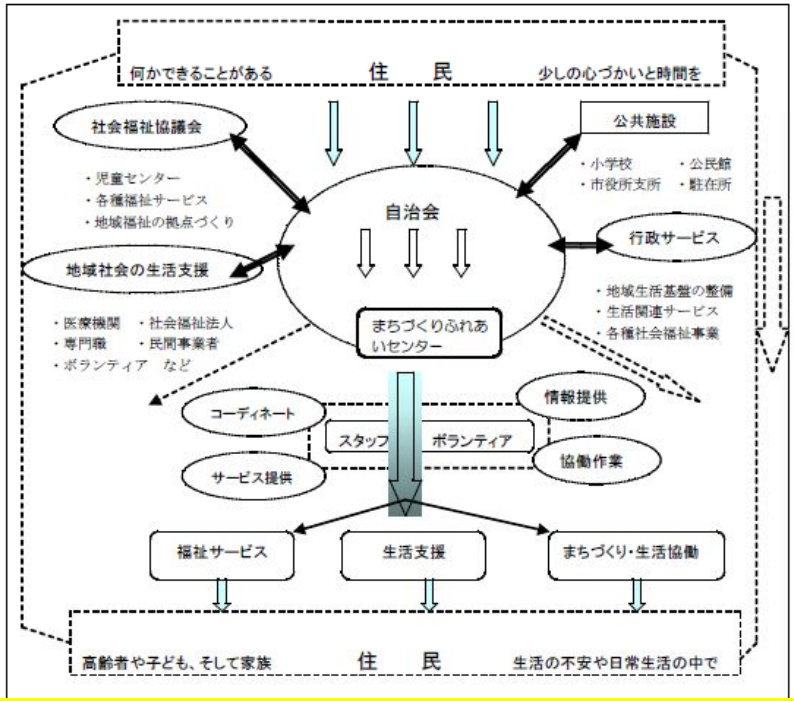
**第2ステップ（自治会による取組）**
・高齢者福祉事業への直接参入
・子育て支援事業（相談活動窓口設置）
・日常生活協働事業（高齢者支援から拡大）

**第3ステップ（ボランティア活動の組織化）**
・相談情報提供事業（総合的な相談窓口の充実）
・まちづくり協働事業（災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援、ﾘｻｲｸﾙ活動、まちづくり研究、文化・学習活動支援等）
・公的施設の運営受託業務
・幼老複合型サービス施設の運営

# ホワイトタウン住民の取り組み（ふれあいセンターわきのしま）

## ■「ふれあいセンターわきのしま」活動原則

原則１　ホワイトタウンを暮らしやすいまちにするため、相互支援（支え合い）の原則のもとにまちづくりふれあいセンター活動を推進します
原則２　センターは、ホワイトタウンの全ての住民を対象に事業を展開します
原則３　センターはホワイトタウンでの生活に対する不安、要望の全てに積極的に対応します
原則４　センターは、住民の建設的な意見を集約して活動します。
原則５　センター事業は、有償無償に関わらず、住民の善意と協働の精神で支えられます
原則６　センターは、ホワイトタウン自治会との協働で住民活動を支えます




ふれあいセンターは「何かできることがある」住民と「生活の不安を抱え支援を求める」住民とを繋いでいる

- ホワイトタウン内で困っている問題があればすぐに対応し、必要ならば事業化する。
- その事業に必要な人材はボランティアとして団地内から集めていく。
- この街に住んで良かったと言えるような街づくり

現在は急激な高齢化が予想される10年先を見据えて、住民組織の運営ノウハウを蓄積しているところ。
今後、活動の浸透と「団塊の世代」のリタイアに伴ってボランティア参加者が拡大し、多様な人材が参画してくれば、住民ニーズに合わせた更なる事業拡大が可能となる。

# ホワイトタウン住民の取り組み（ふれあいセンターわきのしま）

## 「ふれあいセンターわきのしま」の活動状況

- **ふれあいサロン（高齢者支援事業）** 2004.10～
  ひとり暮らし高齢者を対象に「憩いの家」でお茶とお菓子をいただきながら会話を楽しむ（月2回）
- **樹木剪定（シルバー人材活用事業）** 2004.10～
  ホワイトタウンの児童遊園（21ヶ所）、中央バス停、駐車場等の草刈・剪定・施肥を実施（年2回）
- **家事支援（シルバー人材活用事業）** 2005.6～
  高齢者のお宅などで個人では困難な作業（剪定・障子や襖、網戸の張替え等）を請負、登録ボランティアが対応
- **絵本を楽しむ会（子育て支援事業）** 2005.3～
  絵本を楽しみながら子育て相談も実施（月1回）
- **さくらんぼ（障がい児サポート事業）** 2006.3～
  障がいを持った子どもの小学校郊外授業や公民館行事参加時のサポート（月2回）
- **相談事業 （団地内に住む専門家（ボランティア）が相談を受ける）** 2004.10～
  福祉・民生相談（随時）、法律相談（随時）、税金相談（週1日）、契約相談（随時）、こども相談（随時）等
- **予防医療講座** 2005.2～
  名古屋徳州会病院と協働して開催する健康・医療講座（月1回）
- **風景のふれあいづくり（風景に関する活動を通じて団地の風景への愛着を深める）** 2006.1～
  ホワイトタウンの風景の絵画・写真展、歩こう会、絵葉書・カレンダー制作　等

**今後必要だと感じている事業**
①移送サービス（高齢者支援）
②給食サービス（高齢者支援）

## 関係者インタビュー（ふれあいセンターわきのしま運営委員）

・最近駅前にマンションがいくつもできて、交通の利便性を考えると駅前の方が優位性がある。
・働くところがないので第二世代のこどもは就職を機に出て行くし、大学でよそへ行ったら戻ってこない。
・若者の流入が見込めないとすると高齢者が住み易いまちづくりが必要である。
・空地を利用して、自治会で団地内に3カ所の駐車場を運営しているが、空き待ちが出るほどニーズが高い。
・バス路線の関係で病院に行きにくい。駅まで一旦出て乗り換える必要がある。
・「ふれあいセンターわきのしま」の事業には現在、約85名のボランティアに参加してもらっているが、全く無償で資材なども負担していただいている方も一部おられるので、持続可能なように、こうした方々をフォロー（有償ボランティア化）していけるよう考えていかなければいけない。
・近い将来には車が使えない住民が増えるので交通手段（ふれあいセンターをNPO化して移送サービスを事業化する等）をどうするか考えていかなければいけないと思っている。
・笠原で始められている高齢者への給食サービスも今後、検討していきたい。
・ひとり暮らしの高齢者が増えると災害時等の支援をどうするか等についても問題意識を持っている。

## 関係者インタビュー（ふれあいセンターわきのしま運営委員）

・みんなで「もっと住みやすい街にしよう」と自治会を通じて活動していく中で、「ふれあいセンター」が構想されたもの。
・ホワイトタウンの住民は全国各地から集まっているので、ここで故郷づくりをしようと、都会に住んでいるときには隣の住民も知らなかったけれども、ここでは隣近所と仲良く暮らして行こうという思いがある。
・若い人が（団地に）入ってこないのは、働き場所がないから。
・名古屋で「多治見は便利なところ」だともっとPRしていかないといけない。
・以前、行方不明者が出たときに3日間、数多くの団地住民がボランティアとして捜索に協力した。いざとなればそのような人がたくさんいるところである。
・将来危惧している問題は、高齢化した住民の買い物の問題、病院への通院の問題。団地内には病院がなく、最寄りの病院まではとても歩いては行けない。
・路線バスについては、朝夕はともかく、昼間は循環型の路線にすることも必要だと思う。

## 関係者インタビュー（ふれあいセンターわきのしま運営委員）

・将来、団地内で発生が危惧される問題は、団地内で生活が完結しないこと。衣食住や医療の全てが団地内でまかなえない。高齢化が進み自家用車での移動が難しくなった時どうすればよいか。
・団地内のお祭りやイベント（特に運動会）は少子化が進むにつれて参加者が減っている。一方で他の地域にお祭りや運動会がなくて、結婚して団地を離れた二世がこどもを連れて参加する例が増えている。
・成長したこどもたちが大学進学や就職などで団地を離れ、空いた部屋に老親を引き取るケースが増えている。二重の意味での高齢化が進んでいる。
・「ふれあいセンターわきのしま」の成果として、剪定グループによる収益活動（自治会から受注）の作業が丁寧で団地内の緑地は遊歩道がきれいになったことや障がい児（者）に係わる組織が確立されたこと、風景プロジェクトによる地域に対する愛着心が育成されたこと　等が挙げられる。
・「ふれあいセンターわきのしま」の課題は、住民に対するボランティア意識の啓発や運営委員会や実務執行者の組織の整理、各種事業に参加していただけるボランティア間の交流　等が挙げられる。

## 関係者インタビュー（多治見市社会福祉協議会・地域福祉課長）

・多治見市の社会福祉協議会は従来、地域拠点がなく、本部ですべての事業を行ってきたが、それぞれの地域には様々な課題や実情があることに加え、人口の変動や高齢化などにより、全市画一的な対応では十分な対応ができなくなってきていた。
・そこで、地域の実情に即した福祉推進の組織化を図るため、小学校区を単位とする「地域福祉協議会」の検討を進め、同時期に脇之島で検討されていたふれあいセンター構想と活動内容が重なる部分があったので、住民のセンター構想に乗る形で多治見市最初の地域福祉協議会を2004年に設置することとなった。
・地域福祉を推進していく上で地域拠点の設置は極めて有効である。
・地域拠点をベースに「自治会」や「老人クラブ」、「民生委員」等との横の連携が進んだ。

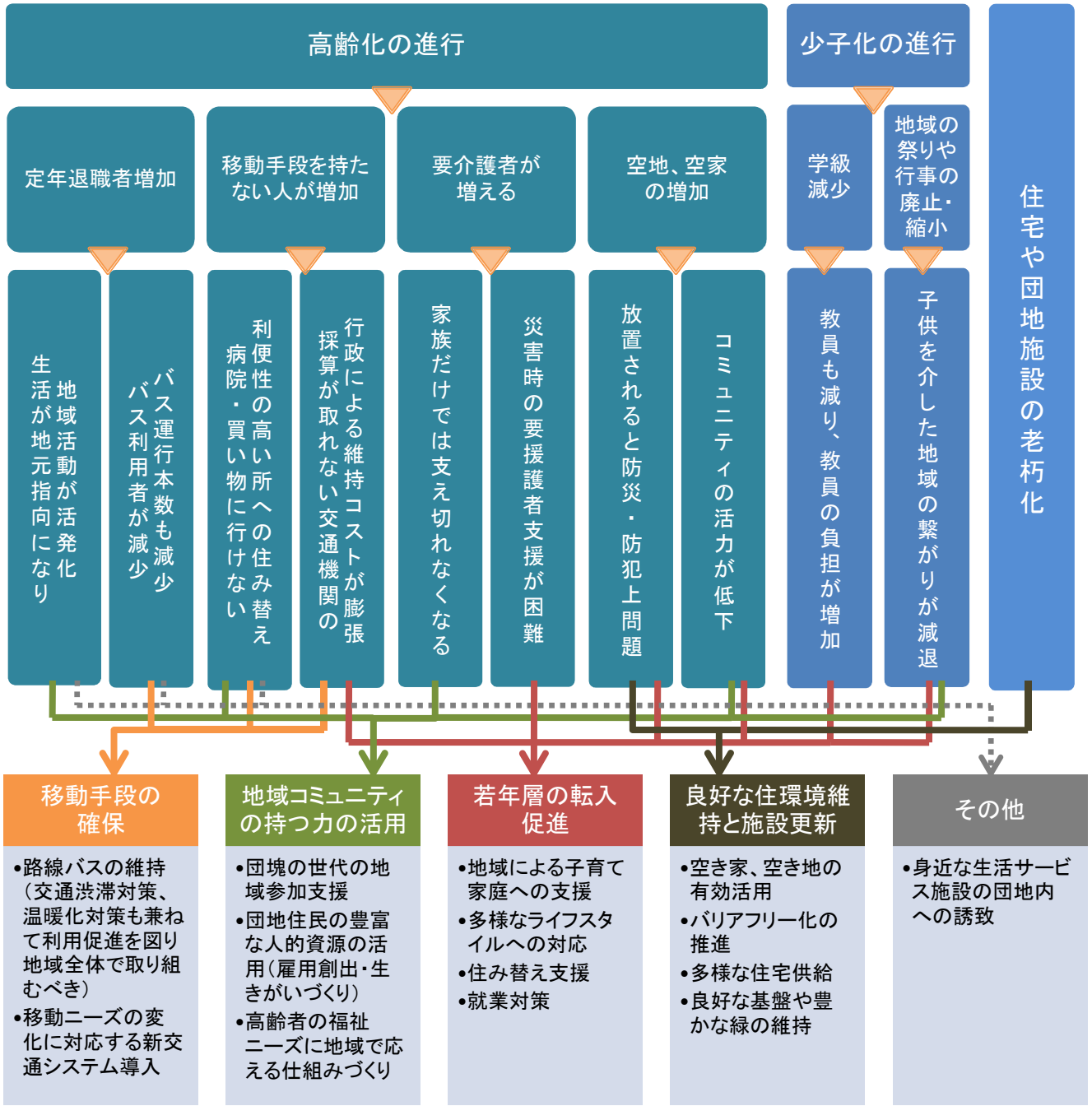
# まとめⅢ

- 自宅玄関までの送り迎えや区域内自由乗降等、利便性が高いと思われた新交通システムであるが、今のところ利用者は伸びていない。しかし、社会変化に対応し、将来の高齢者の「足」となり得る可能性を秘めていることから、持続可能な運営モデルの確立（現在模索中）が待たれる。
- 団地世代の多様化を図るために創設された多子世帯向け家賃補助制度についても同様。
- ホワイトタウンでは現時点で高齢化が進んでいないにも関わらず、住民の高い危機意識と社会福祉協議会の支援によって、10年先を見据えた住民相互支援の仕組みを作り上げ、運営ノウハウを蓄積している。

# Ⅳ　まとめ

（調査から得られた知見）

# 住宅団地の変化と必要な対策（関係図）



# 住宅団地の変化に対して（調査から得られた知見）

## 地域で支え合う仕組みづくり

- 急増する高齢者を地域全体で支えるために、地域の元気な高齢者のマンパワーとスキルを活用するための組織と拠点が必要（高齢者の生きがいづくりや雇用創出の実現に向けて）
- 「よりよい街づくり」に向けての住民による日常的な地域活動の継続が、「地域で支え合う仕組みづくり」のベースになる（地域コミュニティの活性化は基本）

## ソーシャルミックス（多世代混住）の推進

- 良好な基盤や豊かな自然、治安の良さ等、団地の優れた子育て環境を「子育て世代」へ積極的にアピールしていくことが必要
- 若年層を呼び込むためには住み替え支援、地域ぐるみの子育て支援に加えて、市内への企業誘致等就業対策も必要

## 移動手段の確保

- 将来に向けて公共交通（バス）を維持していくためには、利便性を高めた上で、渋滞対策や温暖化対策も兼ねた徹底的なバス利用の促進等、地域全体での取り組みが必要（不採算路線となった郊外団地からの移動支援を行政で担わざるを得なくなると行政コストが膨張）
- 高齢化に伴って起きる変化（通勤者が減って通院者が増える等）にマッチした移動手段の検討・検証、公共交通網の再構築が必要